

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 2019年4月1日
(第50期) 至 2020年3月31日

セントラルスポーツ株式会社

東京都中央区新川一丁目21番2号

(E05145)

目次

	頁
表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	5
4. 関係会社の状況	7
5. 従業員の状況	8
第2 事業の状況	9
1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	9
2. 事業等のリスク	10
3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	11
4. 経営上の重要な契約等	15
5. 研究開発活動	16
第3 設備の状況	17
1. 設備投資等の概要	17
2. 主要な設備の状況	17
3. 設備の新設、除却等の計画	19
第4 提出会社の状況	20
1. 株式等の状況	20
(1) 株式の総数等	20
(2) 新株予約権等の状況	20
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	20
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	20
(5) 所有者別状況	21
(6) 大株主の状況	21
(7) 議決権の状況	22
2. 自己株式の取得等の状況	23
3. 配当政策	24
4. コーポレート・ガバナンスの状況等	25
(1) コーポレート・ガバナンスの概要	25
(2) 役員の状況	30
(3) 監査の状況	34
(4) 役員の報酬等	36
(5) 株式の保有状況	37
第5 経理の状況	39
1. 連結財務諸表等	40
(1) 連結財務諸表	40
(2) その他	74
2. 財務諸表等	75
(1) 財務諸表	75
(2) 主な資産及び負債の内容	88
(3) その他	88
第6 提出会社の株式事務の概要	89
第7 提出会社の参考情報	90
1. 提出会社の親会社等の情報	90
2. その他の参考情報	90
第二部 提出会社の保証会社等の情報	91

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年6月29日
【事業年度】	第50期（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	セントラルスポーツ株式会社
【英訳名】	CENTRAL SPORTS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 後藤 聖治
【本店の所在の場所】	東京都中央区新川一丁目21番2号
【電話番号】	03（5543）1800（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 刀禰 精之
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区新川一丁目21番2号
【電話番号】	03（5543）1800（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 刀禰 精之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (百万円)	51,658	52,712	53,576	54,258	53,386
経常利益 (百万円)	3,199	3,973	3,985	3,950	3,374
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,935	2,724	2,922	2,638	2,138
包括利益 (百万円)	1,928	2,709	2,907	2,623	2,119
純資産額 (百万円)	17,969	19,975	21,981	23,702	24,738
総資産額 (百万円)	41,587	41,266	42,801	43,125	44,732
1株当たり純資産額 (円)	1,593.76	1,771.63	1,949.63	2,102.44	2,207.06
1株当たり当期純利益 (円)	170.29	241.85	259.45	234.19	190.37
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	43.2	48.4	51.3	54.9	55.3
自己資本利益率 (%)	11.1	14.4	13.9	11.6	8.8
株価収益率 (倍)	13.48	14.49	14.95	13.47	12.04
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,975	4,621	4,367	4,214	3,787
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△642	△1,290	△1,164	△2,642	△2,460
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△2,883	△3,940	△2,246	△2,870	△814
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	6,378	5,766	6,721	5,420	5,932
従業員数 (人)	1,124	1,127	1,090	1,117	1,144
(ほか、平均臨時雇用人員)	(3,082)	(3,129)	(3,101)	(3,101)	(3,166)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第49期の期首から適用しており、第48期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (百万円)	46,633	47,418	48,193	48,958	48,048
経常利益 (百万円)	2,893	3,500	3,483	3,484	3,003
当期純利益 (百万円)	1,718	2,277	2,546	2,230	1,914
資本金 (百万円)	2,261	2,261	2,261	2,261	2,261
発行済株式総数 (千株)	11,466	11,466	11,466	11,466	11,466
純資産額 (百万円)	17,267	18,847	20,496	21,822	22,648
総資産額 (百万円)	39,196	38,442	39,904	39,815	42,275
1株当たり純資産額 (円)	1,532.76	1,672.99	1,819.39	1,937.11	2,022.10
1株当たり配当額 (円)	52.00	72.50	78.00	78.00	57.00
(うち1株当たり中間配当額)	(19.00)	(29.50)	(37.00)	(39.00)	(39.00)
1株当たり当期純利益 (円)	151.17	202.18	226.08	197.99	170.40
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	44.1	49.0	51.4	54.8	53.6
自己資本利益率 (%)	10.2	12.6	12.9	10.5	8.6
株価収益率 (倍)	15.19	17.34	17.16	15.94	13.45
配当性向 (%)	34.4	35.9	34.5	39.4	33.5
従業員数 (人)	1,018	1,019	986	1,015	1,041
(ほか、平均臨時雇用人員)	(2,758)	(2,804)	(2,775)	(2,776)	(2,806)
株主総利回り (%)	105.2	162.6	182.9	153.9	117.8
(比較指標：配当込み TOPIX) (%)	(89.2)	(102.3)	(118.5)	(112.5)	(101.8)
最高株価 (円)	2,632	3,865	4,935	4,480	3,355
最低株価 (円)	2,110	2,210	3,100	3,155	1,905

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第49期の期首から適用しており、第48期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

4. 最高株価および最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

2 【沿革】

- 1969年12月 セントラルスポーツクラブを創業、スポーツクラブ運営を開始。
- 1970年 5月 東京都新宿区百人町に㈱セントラルスポーツクラブを設立。東京都杉並区にスイミングスクールを開校し、スクール部門及び指導受託業務部門を開設。
- 1977年 3月 東京都新宿区百人町の本社事務所と千葉県市川市及び東京都新宿区にある営業所を併合し、本社として東京都中央区宝町に移転。
- 1977年10月 東京都知事登録国内旅行業（第2152号）を取得し、旅行業を開始。
- 1978年 8月 セントラル産商㈱を東京都千代田区内幸町に設立し、当社の商事部門として営業を開始。
- 1979年 5月 セントラルスポーツ㈱に商号を変更。
- 1979年10月 セントラル施設㈱を東京都中央区京橋に設立し、施設管理事業を開始。
- 1980年 5月 関西本部を大阪府大阪市東淀川区に設置。
- 1981年 7月 北日本営業本部を宮城県仙台市双葉ヶ丘に設置。
- 1982年 4月 セントラルスポーツ研究所を千葉県市川市相之川に開設。
- 1983年10月 本社を東京都港区東新橋に移転。
- 1983年11月 スポーツクラブの名称に日本で初めてフィットネスクラブと名づけたセントラルフィットネスクラブ新橋を開設。
- 1984年 4月 業務委託を目的としたトップアスリート㈱を東京都港区東新橋に設立。当社にて運營業務を受託。
- 1986年 1月 フィットネス事業部を法人需要の拡大に向けてコーポレート部門として業務を開始。従来のフィットネス事業部の活動はアカデミー本部として継続。
- 1986年10月 西日本営業本部を兵庫県芦屋市船戸町に移転。
- 1986年12月 セントラルスポーツダイビング協会（DACS=Diving Association of Central Sports）を設立。
- 1988年 4月 マリンスポーツ部を新設。
- 1988年 9月 ソウルオリンピックで鈴木大地選手が100m背泳ぎで金メダルを獲得。
- 1989年 3月 仙台市青葉区中央に北日本営業本部を移転。
- 1991年 5月 ケージーセントラルスポーツ㈱（現：連結子会社）を北海道札幌市中央区に設立。同年11月にK G セントラルフィットネスクラブ山鼻を開設。当社にて指導業務受託を行う。
- 1991年 9月 米国コロラド州デンバー市に、ゴルフ場経営指導を目的とし、Central Sports U.S.A., Inc.（現：連結子会社）を設立。同年10月にゴルフ場経営会社として、Meridian Central, Inc.（現：連結子会社）を設立し、Meridian Golf Clubを買収のうえ、ゴルフ場経営を開始。
- 1993年 4月 本社を東京都中央区新川に移転。
- 1993年 5月 運輸大臣登録旅行業第一種（第1184号）を取得。
- 1996年 6月 天王洲スポーツ㈱を東京都品川区東品川に設立。同年10月に天王洲フィットネス倶楽部を開設。当社にて指導業務受託を行う。
- 1999年 4月 心身の健康を考えた21世紀の新しいクラブ、セントラルウェルネスクラブを開設。
- 1999年 6月 フィットネスクラブ業界で初めて世界基準の品質保証であるISO9001の認定を受ける。
- 2000年 1月 連結子会社である㈱サンクレアとセントラル施設㈱が合併し、商号を㈱サンクレアとする。
- 2000年 7月 連結子会社であるトップアスリート㈱より営業全部を譲受け、同社の運営していたクラブをテナントクラブとする。
- 2000年11月 日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 2002年 3月 東京証券取引所市場第二部上場。
- 2002年11月 仙台市青葉区昭和町に北日本営業部を移転。
- 2003年10月 ㈱南海スポーツの全株式を取得し、商号を西日本セントラルスポーツ㈱とする。
- 2004年 3月 東京証券取引所市場第一部上場。
- 2004年 8月 アテネオリンピックに富田洋之、鹿島丈博、森田智己、稲田法子の4選手が出場。金銀銅、合計6個のメダルを獲得。
- 2004年10月 連結子会社である㈱サンクレアを簡易合併。
- 2004年12月 連結子会社である西日本セントラルスポーツ㈱より営業全部を譲受ける。
- 2004年12月 東京都知事登録第50471号を取得し、一級建築士事務所の登録。
- 2005年 1月 東京都知事許可（般-16）第123200号、一般建設業の許可取得。
- 2005年 3月 連結子会社である西日本セントラルスポーツ㈱を清算。
- 2006年11月 本社を東京都中央区新川1-21-2に移転。
- 2006年12月 Wellbridge Central, Inc.（現：連結子会社）を米国コロラド州デンバー市に設立。米国のスポーツクラブFitness Venture, LLC社に出資し、クラブ運営に参画する。
- 2007年 4月 非連結子会社である天王洲スポーツ㈱より事業全部を譲受ける。

- 2008年 8月 北京オリンピックに富田洋之、鹿島丈博、森田智己、伊藤華英、物延靖記の5選手が出場し、男子体操団体で銀メダル2個を獲得。
- 2012年 8月 ロンドンオリンピックに伊藤華英、渡邊一樹、松島美菜の3選手が出場。
- 2012年12月 東京都公安委員会より、警備業（第30003793号）を認定。
- 2013年 1月 厚生労働省許可（般13-305242）、一般労働者派遣事業の許可取得。
- 2013年 7月 (株)明治スポーツプラザ（現：連結子会社）の全株式を取得。
- 2014年 4月 後藤聖治が代表取締役社長に就任。後藤忠治は代表取締役会長に就任。
- 2015年 7月 学校法人順天堂との包括連携協定を締結。
- 2016年 8月 リオデジャネイロオリンピックに寺村美穂選手が出場。
- 2019年 6月 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行。

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当連結会計年度末現在、当社、子会社5社及び関連会社4社で構成され、スポーツクラブの経営及びその関連事業を営んでおります。また、その他の関係会社として、セントラルトラスト株式会社があります。

事業内容と当社、当社の子会社及び関連会社の当該事業にかかる位置付けは、次のとおりであります。

[スポーツクラブ経営事業]

当社グループは、会員制スポーツクラブ経営を主たる業務としており、セントラルスイムクラブ、セントラルスポーツクラブ、セントラルフィットネスクラブ、セントラルウェルネスクラブ、ザバススポーツクラブ、スタジオヨガピス、セントラルスポーツジムスタ、セントラルスポーツジム24等の施設名で運営を行っております。店舗数は、2020年3月31日現在で直営179店舗、業務受託65店舗となり、全国で合計244店舗を展開しております。

直営店舗には自社所有17店舗、テナント162店舗があり、各店舗の運営は出店地域の市場性や規模により営業種目や料金体系に変化を加え地域マーケットを考慮した形態で行っております。

また業務受託店舗には民間スポーツ施設19店舗、公共スポーツ施設46店舗があります。

業務受託店舗は、民間企業や個人事業主等がスポーツクラブ経営を行うにあたり、当社と業務委託契約を締結し、当該スポーツクラブに当社のスタッフを常駐させ会員へのスポーツ指導を行う形態の店舗であります。

公共スポーツ施設も同様の契約形態ではありますが、地方自治体の運営方針によるその業務受託要請範囲に合わせた形態にて契約を締結しております。

連結子会社である㈱明治スポーツプラザ、ケージーセントラルスポーツ㈱及び関連会社であるパレスセントラルスポーツ㈱、八千代ゆりのき台PFI㈱、浜松グリーンウェーブ㈱、すみだスポーツサポートPFI㈱は主にスポーツクラブの経営を行っております。

また、米コロラド州デンバーに所在する連結子会社Central Sports U. S. A., Inc. は持株会社であり、連結子会社Meridian Central, Inc. は会員制ゴルフクラブを経営しております。

なお、当社グループはスポーツクラブ経営事業の単一セグメントであるため、以下の部門別に内容を記載しております。以下の部門は「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」と同一であります。

(1) フィットネス部門

主に直営店舗におけるフィットネス会員（マシンジム・スタジオ・プール・温浴施設等を利用できる会員区分）の会費収入等の売上高から構成される部門です。

(2) スクール部門

主に直営店舗におけるスクール会員（お子様向けスイミングスクール・体育スクール・ダンススクール等の各種スポーツスクール、大人向け各種スポーツスクールの会員区分）の会費収入等の売上高から構成される部門です。

(3) 業務受託部門

業務受託店舗におけるフィットネス収入・スクール収入・その他営業収入等の売上高から構成される部門です。

(4) プロショップ部門

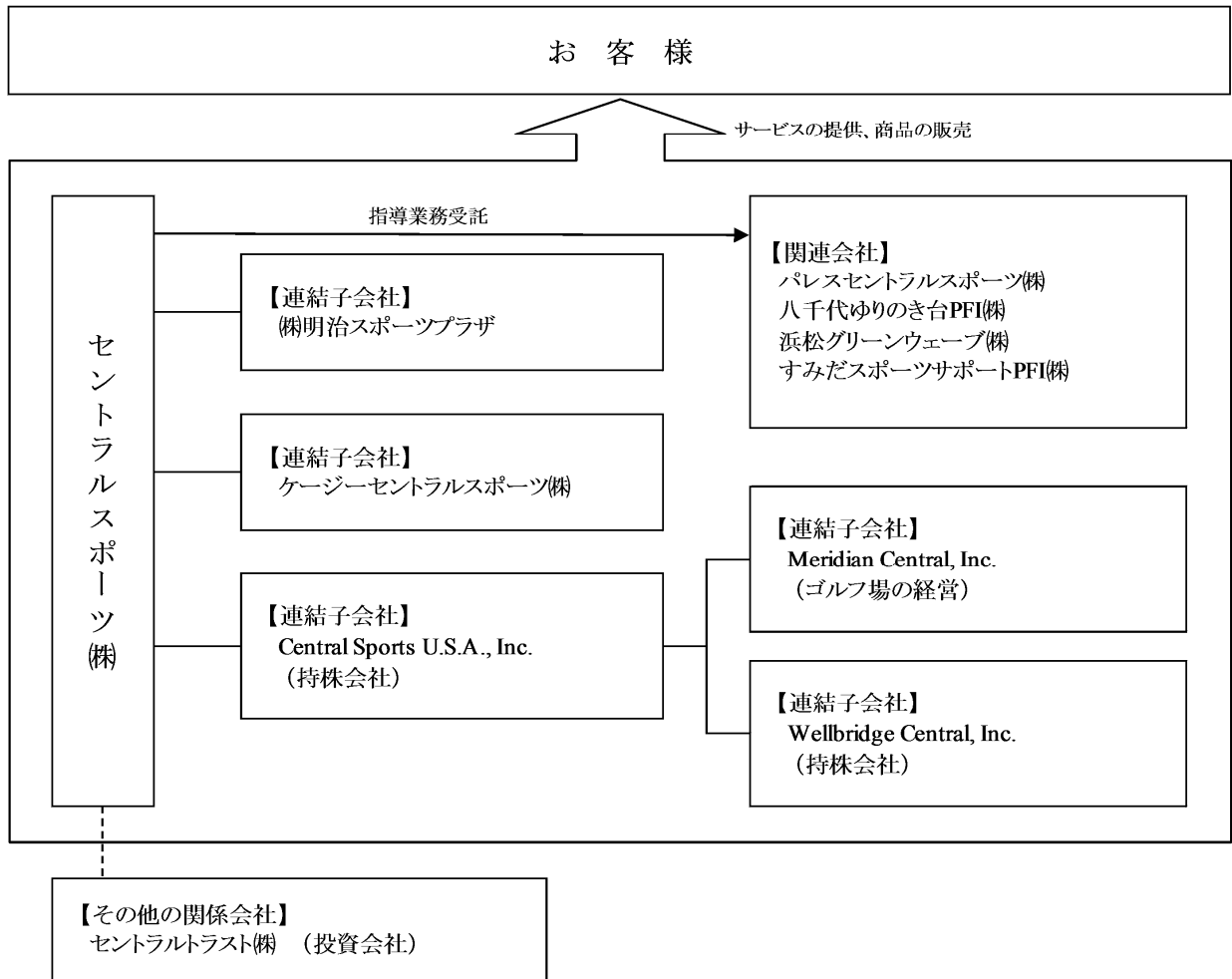
直営店舗のプロショップにおける各種スポーツ用品等の販売収入、また、クラブ内の自販機収入や催事販売収入等の売上高から構成される部門です。

(5) その他

主に会員向けに販売している旅行業収入、自社施設の賃貸による施設賃貸収入、外部販売収入、その他営業収入（業務受託店舗を除く）等の売上高から構成される部門です。

事業系統図

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
㈱明治スポーツプラザ	川崎市幸区	100	スポーツクラブ 経営	100	従業員の出向送り出しを しております。 役員の兼任等…有 (4名)
ケージースセントラル スポーツ㈱	札幌市中央区	50	スポーツクラブ 経営	86	従業員の出向送り出しを しております。 役員の兼任等…無
Central Sports U. S. A., Inc.	米国コロラド 州デンバー市	10, 125 (US\$)	持株会社	100	役員の兼任等…有 (1名)
Meridian Central, Inc.	米国コロラド 州デンバー市	1, 000 (US\$)	ゴルフ場の経営	100 (100)	役員の兼任等…有 (1名)
(その他の関係会社)					
セントラルトラスト㈱	千葉県市川市	10	投資会社	被所有 31	役員の兼任等…有 (2名)

(注) 1. 議決権の所有割合の () 内は、間接所有割合で内数であります。
2. 上記の他に、連結子会社が1社あります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
スポーツクラブ経営事業	1,144 (3,166)
合計	1,144 (3,166)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数であり、臨時従業員は（ ）内に外数で記載しております。
 2. 臨時従業員は、月間160時間（常用雇用社員の年間所定内労働時間数の月平均時間）換算で記載しております。

(2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
1,041 (2,806)	38.4	14.5	5,815,408

セグメントの名称	従業員数（人）
スポーツクラブ経営事業	1,041 (2,806)
合計	1,041 (2,806)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数であり、臨時従業員は（ ）内に外数で記載しております。
 2. 臨時雇用従業員は、月間160時間（常用雇用社員の年間所定内労働時間数の月平均時間）換算で記載しております。
 3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおり、勤続年数1年未満の従業員を除いて算出しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当連結会計年度における世界経済は、米中対立や英国のEU離脱等、政治・政策面での不安要素により不透明な状況で推移しました。国内経済は、消費税増税、大型台風による被害などの影響を受けたものの、一定水準を維持する企業収益、雇用・所得環境の改善などにより総じて堅調に推移しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により2月後半から3月にかけて下降局面に入りました。

当フィットネス業界におきましては、人生100年時代へ向けた取り組みや働き方改革によるライフスタイルの変化への対応として、健康に関する様々な分野における事業やサービスの展開が広がりを見せました。また、ラグビーワールドカップ2019の開催、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての各種スポーツ競技会及びイベントが数多く開催され、国民のスポーツに対する関心は高まりました。

経営理念・経営方針

『0歳から一生涯の健康づくりに貢献する』

当社グループは経営理念として上記を掲げ、すべての世代の方々の健康に寄与できるようサービスの提供を行っております。常にお客様の心に響くサービスを目指し、顧客満足度の向上に努めるとともに、健康の重要性やスポーツの素晴らしさを社会へ広く伝えてまいりました。

2020年5月に当社は設立50周年を迎えました。その先の100周年に向けて、すべての人々が笑顔で健康に暮らすウェルネス社会の実現を目指し、「ウェルネス事業」としての成長を進めてまいります。

今後は、新型コロナウイルス感染症拡大により、免疫力向上、健康・運動が重要視されることや、人生100年時代という価値観の醸成等により、健康関連市場はますます需要が見込まれます。しかし、現時点における感染症による社会経済活動へのダメージは計り知れず、当業界の事業への影響は避けられないと予想しております。店舗における安心・安全な環境づくり、オンラインレッスンははじめとした新たなサービスの提供など、感染症への対策を早急に行い、ウィズコロナへの準備を着実に進め、企業価値の向上、社会環境の変化へのスピーディーな対応に努めてまいります。

経営基盤の強化として、基幹事業の安定収入の確保と事業効率化、人材の確保と育成、キャッシュフロー経営を実践するとともに、経営理念「0歳から一生涯の健康づくりに貢献する」に基づいた新たな分野での事業創出に努めていく必要があります。当社が提供する様々なサービスの価値を今まで以上に広めていくとともに、創業より50年にわたるノウハウと全国に広がる当社グループのメリットを生かし、新たな価値の創造に努めてまいります。

また、創業時より取り組んでまいりました「世界に通用するアスリートの育成」に力を入れるとともに、「明るく 仲よく 元気よく」働きやすく働きがいのある企業を目指し、従業員満足度の向上に持続的に努めるとともに、事業活動を通じて、すべての人々が笑顔で健康に暮らす「ウェルネス社会」の実現を目指してまいります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの事業は、今後起こりうる様々な要因により大きな影響を受ける可能性があります。以下において、当社の事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の予防及び発生した場合の対応に努める方針であります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 収益構造及び業績の変動について

スポーツクラブ運営における収益構造は、労務費や賃借料等の固定費の負担が大きいため、計画時の市場調査から環境の変化、景気の変動、更に競合クラブの出店等により集客に苦戦する場合には収益の確保、初期投資の資金回収に時間がかかる場合があります。

(2) 有利子負債依存度について

当社が店舗を出店する際には、建物入居のための敷金・保証金、店舗内装設備及び器具備品等のための資金を必要とします。当社は、これらの多くを金融機関からの借入金により賄っているため、総資産に占める有利子負債の比率が高い水準にあります。当期は、有利子負債依存度は21.6%（前期比2.1ポイント増）となりました。近年は低金利の状態が続いておりますが、今後の金利変動によっては業績に影響を与える可能性があります。

(3) 敷金及び保証金について

当社が賃貸借契約により差し入れている敷金及び保証金の残高は、当連結会計年度末で10,590百万円となっております。万一、賃貸人の財政状況が悪化し、敷金及び保証金の回収が不能となった場合、賃料との相殺や担保権実行による回収ができない範囲で貸倒損失が発生し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 訴訟等について

当社は、事業活動等に関し、訴訟その他の法的手続等の対象となることがあります。かかる法的手続等は多くの不確定要素により左右されるため、その結果を予測することができません。当社は、当社の連結財務諸表に記載されている金額は、現段階においては適切なものであると確信しておりますが、将来において法的手続等が当社グループの業績に悪影響を与える可能性もあります。

(5) 個人情報の管理について

当社は、スポーツクラブ経営事業における入会手続等に際して個人情報を取得し、利用しております。

当社では、個人情報の保護に関する法律を遵守し、必要な社内規定を定め、個人情報の取り扱いについて適正な管理に努めておりますが、今後、顧客情報の流出により問題が発生した場合、当社への損害賠償請求や信用の低下等により、当社の業績及び今後の事業展開に影響を受ける可能性があります。

(6) 自然災害・新型感染症等の影響について

2011年3月に発生した東日本大震災では、直営店舗及び業務受託店舗の設備の一部が破損し、安全確認が取れるまでの間、東日本の店舗を中心に臨時休業し、例年行っているツアーやイベント、短期スクール等の行事も一部中止致しました。2020年には、新型コロナウイルス感染症の拡大により一定期間、全国の店舗が休業、ツアーやイベントなども中止となりました。また、緊急事態宣言解除後の店舗営業再開に際しても、感染防止対策に十分配慮した店舗運営を実施し、会員の皆様及び従業員の安全を確保しています。このように、震災やその他の自然災害、新型感染症等によって休業が長期にわたる場合、及び行事等の催行中止を余議なくされる場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

業績等の概要

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

① 財政状態及び経営成績の状況

当フィットネス業界におきましては、人生100年時代へ向けた取り組みや働き方改革によるライフスタイルの変化への対応として、健康に関する様々な分野における事業やサービスの展開が広がりを見せました。また、ラグビーワールドカップ2019の開催、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての各種スポーツ競技会及びイベントが数多く開催され、国民のスポーツに対する関心は高まりました。

このような状況の中、当社グループは経営理念である『0歳から一生涯の健康づくりに貢献する』のもと、お客様の心に響くサービスを目指し、顧客満足度の向上に努めるとともに、健康・スポーツの重要性と素晴らしさを多くの皆様に普及・啓発してまいりました。

2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の広がりについては、2月中旬より感染拡大の防止措置として各種イベント及びツアーを中止とし、3月には受託店舗である公共施設の休業、直営店では短期間の休業措置を取りました。また、会員の休会や退会も増加し、影響を受けました。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,606百万円増の44,732百万円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ571百万円増の19,994百万円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,035百万円増の24,738百万円となりました。

b. 経営成績

当社グループは、スポーツクラブ経営事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の売上高は53,386百万円（前期比1.6%減）、経常利益は3,374百万円（前期比14.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益2,138百万円（前期比18.9%減）となりました。

部門別の販売実績については、「③生産、受注及び販売の実績」に記載しております。

なお、当連結会計年度末の店舗数は、直営店179店舗、業務受託店65店舗、合計244店舗となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ511百万円増加し、5,932百万円となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、以下の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、3,787百万円（前年同期では営業活動の結果得られた資金は4,214百万円）となりました。これは、税金等調整前当期純利益3,266百万円、減価償却費1,893百万円、支払利息619百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、2,460百万円（前年同期では投資活動の結果使用した資金は2,642百万円）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出2,565百万円、有形固定資産の売却による収入25百万円、敷金・保証金の差入れによる支出121百万円、敷金・保証金の回収による収入258百万円があったこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、814百万円（前年同期では財務活動の結果使用した資金は2,870百万円）となりました。これは、長期借入金による収入1,700百万円、長期借入金の返済による支出959百万円、配当金の支払額878百万円等によるものです。

③ 生産、受注及び販売の実績

当社グループは、スポーツクラブ経営を主たる事業としているため、提供するサービスの性格上、生産及び受注の実績の記載は省略しております。

販売実績

当社グループは、スポーツクラブ経営事業の単一セグメントであるため、当連結会計年度における販売実績を区分ごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前年同期比 (%)
フィットネス部門	29,780	97.0
スクール部門	13,403	103.6
業務受託部門	5,939	102.5
プロショップ部門	2,384	90.0
その他	1,877	86.5
合計	53,386	98.4

(注) 1. 当連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、当該割合が100分の10未満であるため記載を省略しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

① 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

当社は、連結財務諸表の作成に際し、決算日における資産・負債の報告数値、並びに報告期間における収入・費用の報告数値に影響を与える見積り及び仮定設定を行っております。

当社は、引当金、有価証券、固定資産、繰延税金資産、資産除去債務、偶発事象や訴訟等に関する見積り及び判断に対し、継続して評価を行っております。

当社は、過去の実績や状況に応じて合理的だと考えられる様々な要因に基づき、見積り及び判断を行っております。

実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、第5「経理の状況」の1「連結財務諸表」の「連結財務諸表作成のための基本となっている重要な事項」に記載しております。

連結財務諸表作成に当たって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定に関する情報は、第5「経理の状況」の1「連結財務諸表」の「追加情報」に記載しております。

上記の見積り項目のうち、重要なものは以下のとおりです。

a. 繰延税金資産

過去の業績等に基づいて、将来の課税所得を合理的に見積り、回収可能性を判断した上で繰延税金資産を計上しております。税制改正を含む経営環境の変化等により、課税所得の見積りが大きく変動した場合には、繰延税金資産の計上額が変動する可能性があります。

b. 固定資産の減損会計

店舗についてキャッシュ・フローを生み出す最小単位で資産のグルーピングを行い、減損損失の判定を行っております。営業活動から生じるキャッシュ・フローが継続してマイナスである店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失を計上しております。

② 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等

1) 財政状態

(資産合計)

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,606百万円増の44,732百万円（前連結会計年度末は43,125百万円）となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ245百万円増の8,526百万円（前連結会計年度末は8,281百万円）となりました。これは主に現金及び預金の増加と売掛金の減少によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,361百万円増の36,206百万円（前連結会計年度末は34,844百万円）となりました。これは主に、建物及び附属設備、土地及び有形固定資産に含まれるリース資産等による有形固定資産が1,542百万円増加したことによるものです。

(負債合計)

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ571百万円増の19,994百万円（前連結会計年度末は19,422百万円）となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ680百万円減の9,795百万円（前連結会計年度末は10,476百万円）となりました。これは主に、未払金の290百万円減少、未払法人税等の190百万円減少によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,252百万円増の10,199百万円（前連結会計年度末は8,946百万円）となりました。これは主に長期借入金の644百万円増加、固定負債に含まれるリース債務の515百万円増加によるものです。

(純資産合計)

純資産は、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ1,035百万円増の24,738百万円（前連結会計年度末は23,702百万円）となりました。

2) 経営成績

(売上高)

売上高は、主にフィットネス収入の減少などにより、前連結会計年度に比べ1.6%減の53,386百万円となりました。

(売上原価、販売費及び一般管理費)

売上原価は、クラブの人件費、水道光熱費や修繕費の減少などにより、前連結会計年度に比べ0.9%減の45,877百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、のれん償却額や福利厚生費の減少などにより、前連結会計年度に比べ0.2%減の3,694百万円となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度に比べて18.9%減の2,138百万円となりました。

3) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 ②キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

b. 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの経営成績に重要な影響を与えるリスクについては、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載しておりますが、その他、影響を与える要因としては、市場動向、景気の変動、賃貸借契約・受託契約、事故・訴訟・個人情報管理、建設費用・クラブ運営費用、自然災害等があります。

市場動向については、国民の健康・スポーツに対する関心の高まりにより、マーケットが広がっておりますが、異業種からの新規参入、小型店や特化された専門店等の店舗拡大、ICTを活用したサービス提供等が進んでおり、今後も更に競合が増えていくものと予想されます。こうした中、業界のパイオニア企業としての強みを生かすとともに、財務体制を整え、社会環境変化へのスピーディーな対応を行ってまいります。

景気の変動については、個人の経済的な可処分所得の増減や企業の業績による影響を受けることが予想されます。この為、「0歳から一生涯の健康づくりに貢献する」という経営理念に基づき、様々な世代の皆様を対象としたサービスを提供するとともに、公共団体や民間団体の指定管理業務や業務受託の契約締結により、安定した運営を行ってまいります。

賃貸借契約・受託契約については、契約内容が変更されるリスクや解約のリスクがありますが、取引先との良好な関係を築くとともに、契約内容のチェック・管理体制を整えてまいります。

事故・訴訟・個人情報管理については、未然に防止できるよう安全管理対策、従業員の研修や意識改革、注意喚起等に日常的に取り組んでおります。

建設費用・クラブ運営費用については、建設に関わる費用の高騰、クラブ運営の為の労務費・水道光熱費の上下変動による影響が大きくなっております。

自然災害については、全国に広がる店舗展開によりリスク管理をしておりますが、事前の抑制策として日頃の点検・早期修繕に努めてまいります。

新型感染症については、十分な感染予防対策を行うとともに、お客様が安心して利用できる様々なサービスの提供を検討してまいります。

c. 資本の財源及び資金の流動性

(資金需要)

当社グループの事業活動における運転資金需要の主なもの、全国に広がる店舗の賃借料、労務費、水道光熱費等であり、設備資金需要としては、新規店舗出店及び店舗のリニューアルに関する投資、スポーツ施設内のトレーニング機器類設置等があります。

(財務政策)

当社グループの事業活動の維持拡大に必要な資金を安定的に確保するため、十分な内部資金を効率的に活用するとともに、投資計画をもとに金融機関からの借入により資金調達を行っております。

d. 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、安定した経営基盤の維持と持続的な成長を目指し、財務強化として自己資本比率と経常利益率を重要な指標と位置づけてまいりました。自己資本比率51%以上、経常利益率8%以上の達成を目標値としております。当連結会計年度の自己資本比率は55.3%、経常利益率は6.3%という結果になりました。今後も当該指標の達成を目指して経営にあたってまいります。

4【経営上の重要な契約等】

(1)業務受託契約

当社は、店舗の展開を図るにあたり、下記の業務受託契約を締結しております。
業務受託店舗数は2020年3月31日現在で65店舗となっております。

①契約の本旨

他企業が管理運営するスポーツ施設における施設管理運営業務のなかで、主にスイミング・フィットネスの指導を委託され顧客に直接指導を行うとともに、クラブの運営ノウハウを提供する契約を締結しております。

②内容

他の企業及び個人が土地・建物等を所有し、スイミングクラブまたは、フィットネスクラブを経営しており、その指導業務及び監視業務、一部受付け業務等の委託契約を締結し、当社の社員を従事させ直接会員に指導等を行っております。また、業務委託企業は、当社に対して委託料（各企業との契約によって多少異なりますが、売上に対して一定料率の金額または一定金額）を支払います。

③契約先内訳

A. 民間企業施設…19店舗

他の企業及び個人が土地・建物等を所有し、スイミングまたはフィットネス営業を行っており、その指導業務を委託され当社の社員を派遣して直接会員に指導を行っている施設となります。

B. 公共施設…46店舗

地方公共施設とタイアップを行い、施設の管理業務及びプールの監視業務等を委託されている施設となります。

④契約期間

契約先により異なりますが、契約期間は1年～15年間であります。解約更新の申込時期については、契約期間満了日の1ヶ月～6ヶ月前となっております。

5 【研究開発活動】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、『0歳から一生涯の健康づくりに貢献する』を経営理念とし、会員制スポーツクラブ経営を主要事業としております。本事業において会員に提供する運動プログラムの品質管理は、アカデミー部が統括し、新たなプログラムやシステムの開発、競泳や体操競技をはじめとしたトップアスリートの育成・強化システムの研究開発活動等を行っております。

なお、当連結会計年度の当社グループにおける研究開発活動の全ては、会員制スポーツクラブ経営事業に係るものであり、当連結会計年度における研究開発費は160百万円であります。

(1) 研究開発活動の方針

0歳から一生涯の健康づくりに貢献するプログラムの開発、インストラクターの教育

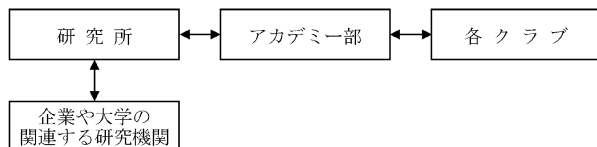
- ①時代の流れに応じた新規プログラム開発
- ②確かな指導を提供する人材の育成と管理
- ③既存プログラムの管理と改善
- ④安全管理

なお、研究開発活動は次に掲げる4つの課題を柱として行われております。

- メンバーの運動目的・来館目的の達成に貢献するための健康及び運動プログラムとシステムの開発
- クラブの安全管理に関するシステムの開発
- 選手の育成に関するシステムの開発
- 上記に関連する制作物の開発

(2) 研究開発活動の体制

研究開発活動の体制については下記のとおりであります。プログラムの内容によりクラブのインストラクターとプロジェクトチームを発足させて開発を行うこともあります。また、各プログラムの運動強度・消費エネルギー・身体への有効性等の調査を研究所で行うとともに、千葉大学医学部附属病院および学校法人順天堂との提携により、運動指導を実施し、運動効果の検証・調査・意見交換等を行っております。



(3) 研究開発成果及びその内容

研究開発課題	項目	内容
顧客層拡大に向けた プログラム開発	ワークアウト ヨガ	ヨガのポーズを繰り返しながら、筋力トレーニングを行う、オリジナルヨガプログラム 柔軟性と筋力アップの両方を目指すことができ、暗闇のライティングで自分の動きに集中できる
	ファイティング DOJO	シンプルな格闘技のトレーニング動作をとり入れ、音楽を楽しみながらストレス発散できるプログラム 各パート3分間で体力に合わせて進めることができ、暗闇のライティングで自分の動きに集中できる
	マインドボディ リセット ～脳の休息～	今に集中する瞑想と簡単なエクササイズで、ココロとカラダをリセットするプログラム 運動に不慣れな方でも自分のペースでできる
	ワンダフル スポーツアクア	水中で様々なスポーツ種目の特徴的な動作を行うことにより、浮力や水の抵抗を感じながら、体を動かす楽しさを体感できるプログラム 音楽に合わせる必要がないので、自分のペースでできる
	アスリート キャンプ ～挑戦～	代表的なトレーニング種目を、回数や時間を設定し、筋力や筋持久力アップを目的に行う高強度プログラム 種目ごとにランキングを作成し、モチベーションを高める
	肌ケア	簡単な運動(有酸素運動・表情筋トレーニング・セルフマッサージ)と栄養や肌についての正しい知識で、健康で美しい肌を維持、回復することを目指す 3ヶ月毎にテーマを変え、1年を通して起こる肌の変化への知識を身につける学習型プログラム

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び関連子会社）は、経営理念である『0歳から一生涯の健康づくりに貢献する』に基づき様々な顧客のニーズに対応した新規出店を進めてまいりました。また、既存店舗におきましては、積極的に施設のリニューアルを行い、充実した施設づくりを実施いたしました。

このような施設費用としての新規投資及び新規プログラム開発等のコンピュータ関係の投資を含め、全体で2,754百万円の設備投資を実施いたしました。

2【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

2020年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額（単位：百万円）						従業員数 (人)
		建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (東京都中央区) (注2)	営業車両 及び器具 備品その 他設備	151	35	213 (30,743.40)	18	158	578	119 (62)
亀有 (東京都葛飾区) 他東京都48店舗	スポーツ クラブ設 備	1,450	80	753 (1,543.01)	1,603	0	3,888	264 (686)
柏 (千葉県柏市) 他千葉県28店舗	スポーツ クラブ設 備	2,884	126	5,685 (13,728.17)	682	227	9,606	136 (377)
センター南 (横浜市都筑区) 他神奈川県24店舗	スポーツ クラブ設 備	713	41	—	296	—	1,051	140 (357)
東松山 (埼玉県東松山市) 他埼玉県16店舗	スポーツ クラブ設 備	1,272	41	—	549	—	1,863	76 (238)
F字都宮 (栃木県宇都宮市) 他栃木県4店舗	スポーツ クラブ設 備	50	2	—	5	—	57	19 (41)
高崎 (群馬県高崎市) 他群馬県3店舗	スポーツ クラブ設 備	12	11	—	0	—	24	14 (98)
一社 (名古屋市名東区) 他愛知県7店舗	スポーツ クラブ設 備	154	12	—	0	—	167	29 (117)
金沢 (石川県金沢市) 他石川県1店舗	スポーツ クラブ設 備	8	9	—	0	—	17	7 (23)
平野 (大阪市平野区) 他大阪府13店舗	スポーツ クラブ設 備	1,033	21	74 (228.84)	196	—	1,325	50 (159)
尼崎 (兵庫県尼崎市) 他兵庫県6店舗	スポーツ クラブ設 備	320	8	—	180	—	509	32 (96)
福岡 (福岡市東区) 他福岡県3店舗	スポーツ クラブ設 備	170	25	—	0	—	196	11 (43)
熊本 (熊本市中央区)	スポーツ クラブ設 備	81	19	—	0	—	100	2 (5)
東苗穂 (札幌市東区) 他北海道5店舗	スポーツ クラブ設 備	353	18	84 (3,636.36)	395	—	852	18 (77)

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (単位: 百万円)						従業員数 (人)
		建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
秋田 (秋田県秋田市) 他秋田県2店舗	スポーツク ラブ設備	123	2	401 (5,165.54)	0	—	528	4 (32)
東根 (山形県東根市) 他山形県2店舗	スポーツク ラブ設備	16	0	—	0	—	16	6 (19)
南仙台 (宮城県名取市) 他宮城県8店舗	スポーツク ラブ設備	515	13	—	15	—	545	33 (131)
福島 (福島県福島市) 他福島県1店舗	スポーツク ラブ設備	8	1	—	139	—	148	10 (22)
S東戸塚 (横浜市戸塚区)	賃貸用スポー ツクラブビル	—	—	123 (893.81)	0	—	123	5 (9)

(2) 国内子会社

2020年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (単位: 百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
ケージーセン トラルスポー ツ㈱	山鼻 (札幌市 中央区)	スポーツク ラブ設備	57	1	—	—	—	58	3 (18)
㈱明治スポー ツプラザ	本社・和 光 (埼玉県 和光市) 他16店舗	車両及び器 具備品・ス ポーツクラ ブ設備	994	20	—	64	2	1,082	100 (342)

(3) 在外子会社

2020年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (単位: 百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
Meridian Central, Inc.	米国 コロラド 州デンバ ー市	ゴルフ場	168	56	375 (1,223,142.30)	43	—	644	—

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、機械装置・運搬具・建設仮勘定・ソフトウェアであります。なお、金額には消費税等を含みません。
2. 設備の種類別帳簿価額には、従業員社宅、福利厚生設備等に使用している設備を含んでおります。
3. 上記のほか、主な賃借設備として、本社及びテナントクラブの建物等(年間賃借料9,337百万円)があります。
4. 従業員数欄の()は、契約社員、派遣社員及び臨時従業員(外書)であります。なお、月間160時間(常用雇用社員の年間所定労働時間の月平均時間)換算で記載しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定していますが、計画策定に当たってはグループ会議において提出会社を中心に調整を図っております。

(1) 重要な設備の新設等

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設の計画は、次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調達法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
セントラル フィットネ スクラブ24 茂原	千葉県 茂原市	会員制スポ ーツクラブ 経営事業	躯体建築・内 装設備・省エ ネ・サイン関 係工事・敷 金・土地等	681	324	自己資金及 び借入金	2019年8月	2020年4月	店舗

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	42,164,000
計	42,164,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (2020年3月31日)(株)	提出日現在発行数 (2020年6月29日)(株)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,466,300	11,466,300	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	11,466,300	11,466,300	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2008年4月1日～ 2008年7月31日 (注)	117	11,466	48	2,261	48	2,273

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	21	22	105	62	20	17,474	17,704	—
所有株式数 (単元)	—	10,835	565	35,346	4,199	42	63,632	114,619	4,400
所有株式数の 割合（%）	—	9.45	0.49	30.83	3.66	0.03	55.51	100	—

(注) 1. 自己株式265,659株は、「個人その他」に2,656単元及び「単元未満株式の状況」に59株を含めて記載しております。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式（自己 株式を除く。）の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
セントラルトラスト株式会社	千葉県市川市八幡5-13-1	3,439	30.70
後藤 忠治	千葉県市川市	598	5.34
後藤 聖治	千葉県市川市	573	5.11
セントラルスポーツ社員持株会	東京都中央区新川1-21-2	482	4.30
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	232	2.07
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	195	1.74
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	144	1.28
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	111	0.99
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海1-8-11	91	0.81
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口1)	東京都中央区晴海1-8-11	74	0.66
計	—	5,942	53.05

(注) 1. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は78千株であります。なお、それらの内訳は、年金信託設定分5千株、投資信託設定分72千株となっております。

2. 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は153千株であります。なお、それらの内訳は、年金信託設定分11千株、投資信託設定分142千株となっております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 265,600	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 11,196,300	111,963	—
単元未満株式	普通株式 4,400	—	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	11,466,300	—	—
総株主の議決権	—	111,963	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

② 【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
セントラルスポーツ 株式会社	東京都中央区新川 一丁目21番2号	265,600	—	265,600	2.31
計	—	265,600	—	265,600	2.31

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会 (2019年9月27日) での決議状況 (取得期間 2019年9月30日～2019年10月31日)	100,000	350,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	65,000	205,075,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	35,000	144,925,000
当事業年度の末日現在の未行使割合 (%)	35.0	41.4
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合 (%)	35.0	41.4

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	45	144,000
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	265,659	—	265,659	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する長期的かつ総合的な利益の拡大を重要な経営目的と位置付けております。

利益配分につきましては、中間配当と期末配当の年2回の配当を行うことを基本方針としており、これら剰余金の配当の決定機関は、中間配当、期末配当とも取締役会となっております。

会員制スポーツクラブ経営を始めとする当社の主力事業部門が属する産業分野では、技術革新や市場構造の変化が急速に進展してきており、今後とも市場競争力を確保し、収益の向上を図るためには、設備投資、研究開発、新規事業等への積極的な先行投資が必須であります。

従って、株主に対する配当につきましては、中長期的な事業計画に基づき、再投資のための内部資金の確保と安定的な配当を念頭に置きながら、財政状態、利益水準及び配当性向等を総合的に勘案して検討することとしております。

以上の方針に基づき、当期の配当につきましては、1株当たりの期末配当金を18円、中間配当金39円を加えた年間配当金は57円とすることを決定いたしました。この結果、当事業年度の配当性向は連結ベースで29.9%（単体ベースで33.5%）となりました。

内部留保資金につきましては、新規出店投資、既存店舗の改修等のリニューアル投資、さらに新規サービス、新プログラム開発、サービスの向上等に有効投資し、事業の拡大に努めてまいり所存であります。

なお当社は、「取締役会の決議によって、毎年3月31日を基準として期末配当、9月30日を基準として中間配当を行うことができる」旨定款に定めております。

当事業年度における剰余金の配当は以下のとおりです。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2019年11月8日 取締役会決議	439	39.00
2020年5月13日 取締役会決議	201	18.00

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

① 企業統治の体制の概要

当社グループは、『0歳から一生涯の健康づくりに貢献する』という経営理念のもと、スポーツを通じてすべての方々の健康と快適ライフを創造する企業として質の高いサービスの提供に務め、将来を通じて社会貢献のできる企業を目指しております。

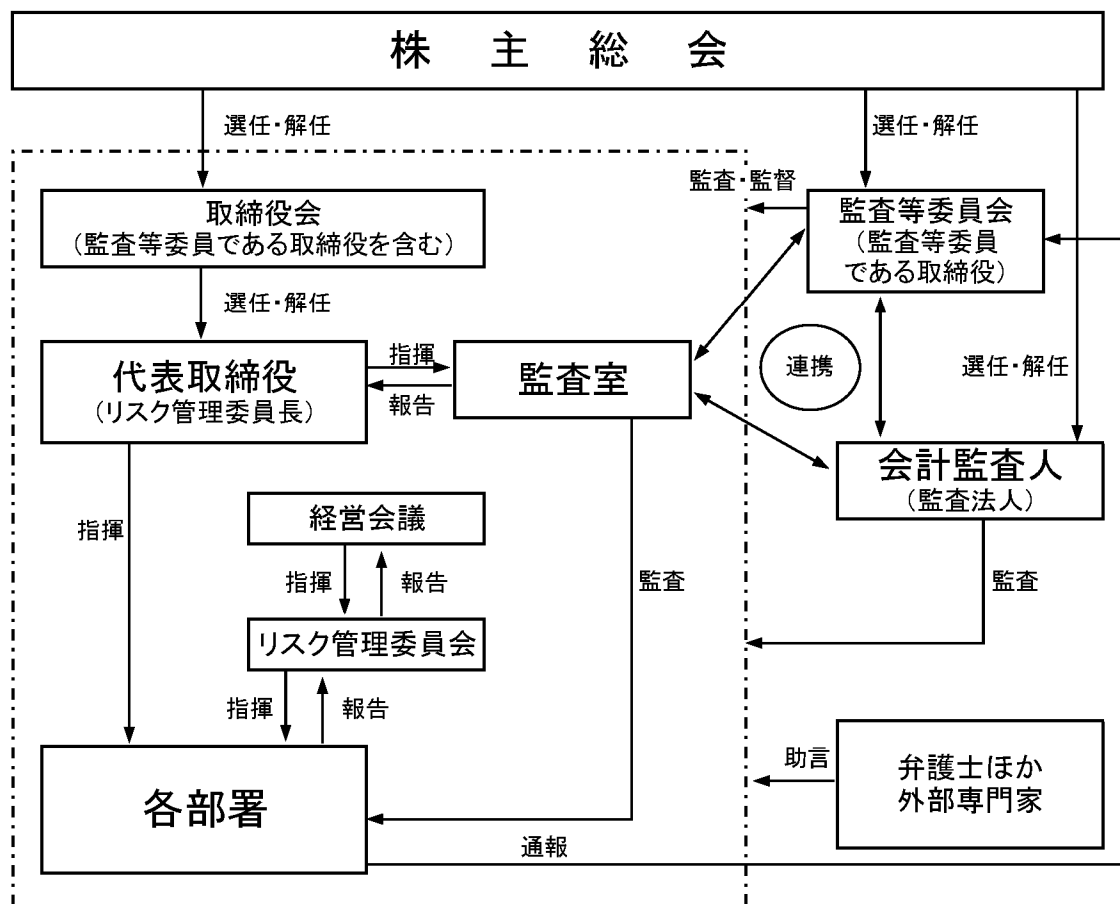
当社は取締役会における監督機能を強化し、更なる監視体制の強化を通じてより一層のコーポレート・ガバナンスの充実および更なる企業価値の向上を図るため、2019年6月27日付で監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

当社の経営管理体制は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）は後藤忠治、後藤聖治、山崎幸雄、鈴木陽二、刀禰精之、松田友治、矢田恭一、木本匡、鶴田一彦の9名、監査等委員である取締役は河本勝、濱田浩、川村延彦、岩崎厚宏、原田睦巳の5名（うち、川村、岩崎、原田の3名が社外取締役）で構成されております。

「取締役会」は原則毎月1回以上開催し、社外取締役3名を含む14名が出席して、代表取締役社長 後藤聖治を議長とし、当社の業務執行の決定を通じて、意思決定を行います。また、その取締役（監査等委員である取締役を含む。）の職務執行を監督する立場にある監査等委員が集まる「監査等委員会」を原則毎月1回開催します。さらに、経営上の意思決定の仕組みを明確にし、経営の透明性を高めることを目的に、グループ全体の経営戦略、中長期経営方針を審議・決定する機関として「経営会議」を設置し、原則として毎月1回開催しております。同会議は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び常勤の監査等委員である取締役並びに執行役員で構成されております。また当社は、執行役員制度を実施し、経営の迅速化・効率化等に取り組んでおります。

会計監査人はEY新日本有限責任監査法人と監査契約を結び、公正不偏な立場から監査が実施される環境を整備しております。

〈当社のコーポレート・ガバナンス体制〉



② 企業統治の体制を採用する理由

当社は、監査等委員会設置会社へ移行し、5名の監査等委員を選任しており、うち3名は社外取締役の資格要件を満たした監査等委員である取締役であり、監査等委員会の経営からの独立性を担保しており、上記の体制とすることにより、健全でバランスの取れた経営体制の構築と牽制機能の強化に努めながら、経営環境の変化に迅速かつ、的確に対応できる経営判断を行い、コンプライアンスに則った各施策により、透明度の高い経営及び業務執行の確保と株主の立場に立って、企業価値の向上に努めることができると考えております。

③ 内部統制システムの整備の状況

当社および当社グループは、次のとおり「内部統制システム構築の基本方針」を定め、業務の有効性、効率性および適正性を確保し、企業価値の維持・増大につなげております。

- I. 「当社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制」について
 - (i) コンプライアンス体制の基礎として、「コンプライアンス基本規程」を定め、全役職員に周知徹底させる。
 - (ii) 代表取締役社長を委員長とするリスク管理委員会を設置し、コンプライアンス体制の整備を図る。
 - (iii) 必要に応じてマニュアル・ガイドライン等を定め、コンプライアンスに関する知識および倫理の向上を図るための研修体制の整備を図る。
 - (iv) 取締役は、重大な法令違反およびコンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合は、直ちに監査等委員会に報告するとともに、遅滞なく取締役会に報告する。
 - (v) 監査等委員会は、経営から独立した立場から、内部統制システムの整備・運用および取締役の職務執行を監査する。
 - (vi) 「内部通報規程」を定め、法令違反およびその他コンプライアンスに関する事実についての社内通報体制の整備を図る。
 - (vii) 監査等委員会は、コンプライアンス体制および社内通報体制に問題があると認めた場合は、意見を述べるとともに、改善策を求めることができる。
 - (viii) 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは一切の関係を持たず、毅然とした態度で対応する。
- II. 「当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制」について
取締役の職務執行に係る意思決定および報告に関しては、「文書管理規程」を定め、同規程に基づく適切な保存・管理を行う。
- III. 「当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制」について
 - (i) リスク管理体制の基礎として、「リスク管理規程」を定め、各部門長は各担当部門のリスク管理体制の整備を図る。
 - (ii) 不測の事態が発生した場合は、「リスク管理規程」に基づく対策本部を設置し、顧問弁護士等を含む外部アドバイザーと協議のうえ、損失を最小限に止める体制を整える。
- IV. 「当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制」について
 - (i) 当社の経営方針および経営戦略に関わる重要事項については、取締役以上で構成される会議体を設置し、合議制により慎重な意思決定を行う。
 - (ii) 取締役会の決定に基づく職務執行にあたっては、「組織規程」、「業務分掌規程」において、職務執行の詳細を定める。
- V. 「当社ならびにその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制」について
- V-I 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制
 - (i) 当社が定める「関係会社管理規程」において、子会社の営業成績、財務状況その他の重要な情報について、当社への定期的な報告を義務づける。
 - (ii) 当社は、定期的に当社および当社の子会社の取締役が出席する会議を開催し、当社子会社において重要な事象が発生した場合には、子会社に対し、当該会議における報告を義務づける。
- V-II 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - (i) 当社は、当社グループ全体のリスク管理について定める「リスク管理規程」を策定し、グループ全体のリスクを統括的に管理する。
 - (ii) 当社は、当社グループのリスク管理機関としてリスク管理委員会を設置し、グループ全体のリスクマネジメント推進に関わる課題・対応策を審議する。

- Vーハ子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- (i) 当社は、グループ中期経営計画を策定し、当該中期経営計画を具体化するため、毎事業年度ごとのグループ全体の重点経営目標および予算配分等を定める。
 - (ii) 当社は、当社グループの意思決定を子会社に周知徹底するための体制を構築する。
- Vーニ子会社の取締役等および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
- (i) 当社は、「コンプライアンス基本規程」を作成し、当社グループのすべての役員に周知徹底する。
 - (ii) 当社は、当社グループの役員に対し、年1回、コンプライアンス研修を行い、コンプライアンス意識の醸成を図る。
 - (iii) 当社監査室は、「内部監査規程」および「関係会社管理規程」に基づき、子会社に対する内部監査を実施する。
 - (iv) 当社は、「内部通報規程」に基づき、当社グループの役員が直接通報を行うことができる体制を整備する。
- VI. 「当社の監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人に関する事項」について
取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、監査等委員会の求めにより、監査等委員会の職務を補助する使用人（以下「監査等委員会スタッフ」という。）として、適切な人材を配置しなければならない。
- VII. 「前項の監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人の当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性に関する事項」について
監査等委員会スタッフの適切な職務遂行のため、人事考課は監査等委員会が行い、監査等委員会スタッフの任命、解任、人事異動、賃金改定、懲戒等については、監査等委員会の同意を得るものとする。
- VIII. 「当社の監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人に対する監査等委員会の指示の実効性の確保に関する事項」について
- (i) 監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人は、監査等委員会の指揮命令に従わなければならない。
 - (ii) 当社は、監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人に対し、監査等委員会の指揮命令に従わなかった場合は社内処分の対象とし得る。
- IX. 「当社の監査等委員会への報告に関する体制」について
- IXーイ当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）および使用人が当社の監査等委員会に報告するための体制
- (i) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、監査等委員会が同席する重要な会議において、随時、職務の執行状況について報告する。
 - (ii) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）および使用人は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合は、直ちに監査等委員会に報告する。
 - (iii) 監査等委員会は、いつでも必要に応じて、取締役（監査等委員である取締役を除く。）および使用人に対して報告を求めることができる。
- IXーロ子会社の取締役・監査役等および使用人またはこれらの者から報告を受けた者が、当社の監査等委員会に報告するための体制
- (i) 当社グループの役員は、当社の監査等委員会から業務執行に関する事項について報告を求められた場合は、速やかに適切な報告を行う。
 - (ii) 当社グループの役員は、法令等の違反行為ならびに当社または当社の子会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実については、これを発見次第、直ちに当社の監査等委員会に対して報告を行う。
 - (iii) 当社監査室は、定期的に当社グループにおける内部監査、コンプライアンス、リスク管理等の現状を当社の監査等委員会に報告する。
- X. 「監査等委員会へ報告した者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制」について
- (i) 当社は、当社の監査等委員会へ報告を行った当社グループの役員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループの役員に周知徹底する。
 - (ii) 当社の「内部通報規程」において、当社グループの役員が当該内部通報をしたことによる不利益な取扱いを禁止する旨を明記する。

- XI. 「監査等委員の職務の執行（監査等委員会の職務の執行に関するものに限る。）について生ずる費用の前払いまたは償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項」について
- (i) 当社は、監査等委員がその職務の執行について、当社に対し、会社法第399条の2第4項に基づく費用の前払い等の請求をした場合は、当該請求に係る費用または債務が当該監査等委員の職務の執行に必要なでないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
 - (ii) 監査等委員会が、弁護士、公認会計士等の外部アドバイザーを監査等委員のための顧問とすることを求めた場合は、当該監査等委員会の職務の執行に必要なでないと認められた場合を除き、その費用を負担する。
 - (iii) 当社は、監査等委員会の職務の執行について生ずる費用等を支弁するため、毎年一定額の予算を設ける。
- XII. 「その他当社の監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制」について
- (i) 監査等委員会、会計監査人、監査室は、相互の意思疎通を図るため、定期的に会合を行う。
 - (ii) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、監査等委員会と子会社の取締役等との意思疎通、情報収集、情報交換等が適切に行えるよう協力する。
 - (iii) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、監査等委員会が必要と認めた重要な取引先の調査に協力する。
 - (iv) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、監査等委員会が必要と認めた場合に、弁護士、公認会計士等の外部アドバイザーとの連携を図れるよう協力する。

④ リスク管理体制の整備の状況

リスク管理とは、企業価値を高めていく上で事業活動に伴う様々なリスクを適切に管理することであると捉え、各種事態の未然防止及び発生に対処する為、代表取締役社長を委員長とする「リスク管理委員会」を設置しております。同委員会では、定期的にリスク情報の洗い出しと事業に対する影響度の評価を行い、効果的な予防措置ならびに発生後の適切な対応策を検討、実施しており、必要に応じて外部の専門家等にアドバイスを受けることとしております。

⑤ 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項に基づき、監査等委員である社外取締役との間において、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づき損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。

⑥ 取締役の定数

当社の取締役（監査等委員である取締役は除く。）は20名以内、監査等委員である取締役は5名以内とする旨定款に定めております。

⑦ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

⑧ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

(a) 自己の株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策等の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

(b) 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(c) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

(d) 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役(取締役であったものを含む。)の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

なお、2019年6月27日開催の第49回定時株主総会において、当社が監査等委員会設置会社へ移行するための定款の変更により、当該株主総会終結前の行為に関する会社法第423条第1項所定の監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において取締役会の決議によって免除することができる旨の規定を経過措置として残しております。

⑨ 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

① 役員一覧

男性14名 女性一名 (役員のうち女性の比率-%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)	後藤 忠治	1941年12月4日生	1964年4月 ㈱大丸入社 1964年12月 東京工機㈱入社 1969年12月 セントラルスポーツクラブ創業 1970年5月 ㈱セントラルスポーツクラブ(現: セントラルスポーツ(株))設立 当社取締役就任 1976年5月 当社代表取締役副社長就任 1977年5月 当社代表取締役社長就任 1981年5月 セントラルトラスト㈱代表取締役社 長就任(現任) 1987年10月 パレスセントラルスポーツ㈱ 取締役就任(現任) 2008年4月 (財)(現:一財)社会スポーツセン ター会長就任(現任) 2014年4月 当社代表取締役会長就任(現任)	(注) 4	598
取締役社長 (代表取締役)	後藤 聖治	1969年8月28日生	1995年4月 三菱商事㈱入社 セントラルトラスト㈱取締役就任 (現任) 1998年4月 当社入社 1999年5月 当社社長室長 1999年6月 当社取締役就任 2000年3月 Central Sports U.S.A., Inc. 取締役 就任(現任) Meridian Central, Inc. 取締役就任 (現任) 2001年3月 当社経営企画室長 2003年6月 当社常務取締役就任 2005年7月 当社営業本部副本部長 2006年12月 Wellbridge Central, Inc. 取締役 就任(現任) 2007年6月 当社専務取締役就任 当社営業本部長 2011年10月 当社代表取締役副社長就任 2013年8月 ㈱明治スポーツプラザ代表取締役 社長就任(現任) 2014年4月 当社代表取締役社長就任(現任)	(注) 4	573
専務取締役	山崎 幸雄	1950年7月9日生	1975年4月 当社入社 1992年3月 当社東日本第一営業部長 1992年6月 当社取締役就任 2000年4月 当社人事部長 2000年7月 当社常務取締役就任 当社総務部長 2003年4月 当社情報管理室長 2005年7月 当社総務部長 2005年8月 当社人事部長 2006年4月 当社総務部担当兼人事部担当 2009年4月 当社管理本部長 2009年6月 当社専務取締役就任(現任)	(注) 4	13
常務取締役	鈴木 陽二	1950年3月9日生	1972年4月 当社入社 1982年10月 当社研究所長 1989年1月 当社取締役就任 当社アカデミー本部長 1994年6月 当社常務取締役就任(現任) 2009年4月 当社競技強化部長(現任)	(注) 4	33

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	刀禰 精之	1955年8月12日生	1979年4月 ㈱協和銀行(現:㈱りそな銀行) 入行 2009年4月 当社入社 当社執行役員 当社経理部長 2010年6月 当社取締役就任 2013年8月 ㈱明治スポーツプラザ監査役就任 (現任) 2014年5月 当社常務取締役就任(現任) 2016年7月 当社経理部担当 2017年4月 当社管理本部副本部長	(注) 4	10
常務取締役	松田 友治	1962年4月11日生	1983年11月 当社入社 2006年4月 当社人事部長 2012年4月 当社執行役員 当社経営企画室長 2013年8月 ㈱明治スポーツプラザ監査役就任 (現任) 2015年6月 当社取締役就任 2019年5月 当社常務取締役就任(現任)	(注) 4	4
取締役	矢田 恭一	1949年10月16日生	2000年10月 ㈱サンクレア取締役就任 2004年10月 当社入社 当社施設部長 2005年6月 当社取締役就任(現任) 2012年4月 当社監査室長 2017年4月 当社監査室担当(現任)	(注) 4	13
取締役	木本 匡	1955年1月14日生	1979年3月 当社入社 2000年4月 当社東日本第二営業部長 2002年11月 当社執行役員 2006年4月 当社第四営業部長 2009年4月 当社第一営業部長 2012年4月 当社アカデミー部長 2013年8月 ㈱明治スポーツプラザ取締役就任 (現任) 2015年5月 当社アカデミー部担当兼研究所担当 2015年6月 当社取締役就任(現任) 2017年4月 当社営業本部副本部長	(注) 4	11
取締役	鶴田 一彦	1959年7月23日生	2003年6月 当社入社 2006年6月 当社執行役員 2010年4月 浜松グリーンウェブ㈱取締役 (現任) 2012年4月 当社マーケティング部長 2013年8月 ㈱明治スポーツプラザ取締役就任 (現任) 2019年4月 当社新規事業開発部長兼店舗開発部 長(現任) 2019年6月 当社取締役就任(現任)	(注) 4	3
取締役 (監査等委員)	河本 勝	1956年12月29日生	1980年3月 当社入社 1996年4月 当社総務部次長 1998年4月 当社株式公開準備室次長 2003年4月 当社総務部長 2005年7月 当社経営企画室長 2006年6月 当社執行役員経営企画室長 2012年4月 当社執行役員人事部長 2019年4月 当社執行役員人事部担当 2019年6月 当社取締役(監査等委員)就任 (現任)	(注) 5	5

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 (監査等委員)	濱田 浩	1944年8月5日生	1968年4月 ㈱協和銀行(現:㈱りそな銀行) 入行 1994年7月 当社入社 当社経理部長 1994年10月 当社取締役就任 1997年12月 当社情報管理室長 1999年4月 当社株式公開準備室長 2000年7月 当社常務取締役就任 2009年6月 当社常勤監査役就任 2019年6月 当社取締役(監査等委員)就任 (現任)	(注) 5	28
取締役 (監査等委員)	川村 延彦	1941年9月3日生	1970年4月 第一東京弁護士会弁護士登録 1977年5月 当社監査役就任 2001年4月 サンライズ法律事務所入所(現任) 2019年6月 当社取締役(監査等委員)就任 (現任)	(注) 5	—
取締役 (監査等委員)	岩崎 厚宏	1970年1月7日生	1992年3月 日本大学商学部卒業 1998年4月 税理士田中事務所入所 1999年10月 ㈱岩崎経営研究所入社 2000年7月 税理士登録 2014年8月 ㈱岩崎経営研究所代表取締役 (現任) 2016年12月 ㈱マミーマート監査役(現任) 2017年6月 当社監査役就任 2019年6月 当社取締役(監査等委員)就任 (現任)	(注) 5	0
取締役 (監査等委員)	原田 睦巳	1975年9月24日生	2000年9月 シドニーオリンピック大会出場 2008年4月 順天堂大学スポーツ健康科学部 助教就任 2009年4月 順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授就任 2009年4月 順天堂大学大学院スポーツ健康科学 研究科 准教授(併任) 2013年11月 順天堂大学スポーツ健康科学部 先任准教授就任 2013年11月 順天堂大学大学院スポーツ健康科学 研究科 先任准教授(併任) 2018年6月 順天堂大学大学院スポーツ健康科学 研究科 教授就任(現任) 2018年6月 順天堂大学スポーツ健康科学部 教授(現任) 2019年6月 当社取締役(監査等委員)就任 (現任)	(注) 5	—
計					1,295

- (注) 1. 2019年6月27日開催の定時株主総会において定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査等委員会設置会社に移行しております。
2. 代表取締役社長後藤聖治は、代表取締役会長後藤忠治の実息であります。
3. 取締役 川村延彦、岩崎厚宏及び原田睦巳は、監査等委員である社外取締役であります。
4. 2020年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
5. 2019年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
6. 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員である取締役(補欠監査等委員)1名を選任しております。補欠監査等委員の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
大隅 潔	1942年6月22日生	1965年4月 ㈱スポーツニッポン新聞社入社 1999年6月 同社東京本社取締役 2005年6月 同社常務取締役西部本社(九州)代表 2007年6月 ㈱スポニチクリエイティブ代表取締役社長 2009年6月 同社顧問 2019年6月 当社補欠監査等委員(現任)	—

② 社外役員の状況

当社の監査等委員である社外取締役は3名であります。

監査等委員である社外取締役 川村 延彦氏は、サンライズ法律事務所に所属しており、弁護士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、独立した立場から監査・監督にあたって頂いております。

監査等委員である社外取締役 岩崎 厚宏氏は、(有)岩崎経営研究所の代表をしており、同所は当社と税理士顧問委嘱契約を締結しており、当社より税理士報酬を受けております。また税理士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。

監査等委員である社外取締役 原田 睦巳氏は、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科教授であり、同大学スポーツ健康科学部教授であります。当社と同大学との間に特別な利害関係はありません。自らの体操競技経験と指導者としての知識・経験、大学での研究活動等、豊富な経験と見識から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、独立した立場から監査・監督にあたって頂いております。

当社の監査等委員である社外取締役による当社株式の保有は「①役員一覧」の「所有株式数」欄に記載の通りです。また、当社との人的関係及び上記以外の利害関係はなく、高い独立性を保持しており、それぞれの専門的知見に基づき、客観的かつ適切な監視、監督といった期待される機能、役割を十二分に果たし、当社の企業統治の有効性に大きく寄与しているものと考えております。

当社は、社外取締役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、その選任に際しては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から中立かつ独立した立場で、社外取締役としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを個別に判断しております。なお、監査等委員である社外取締役 川村 延彦氏、原田 睦巳氏は、東京証券取引所の定める独立役員として届け出ております。

③ 社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

監査等委員会と内部監査部門である監査室は、相互の連携を図るために、定期的な情報交換の場を設置し、監査等委員会の監査方針及び計画並びに監査室の監査方針、計画、実施した監査結果に関する確認及び調整を行っております。

なお、監査室の監査については、取締役会及びリスク管理委員会等を通じ、リスク管理部門の責任者に対して適宜報告がなされております。

また、監査等委員会、会計監査人、監査室が出席する三様監査ミーティングを定例で毎月開催し、月次のそれぞれの監査状況について報告及び協議を行い、監査の環境の整備に努めております。

(3) 【監査の状況】

① 監査等委員会監査の状況

監査等委員会は、取締役5名（うち社外取締役3名）で構成されております。

取締役の河本 勝氏は当社入社以来、経理・総務・人事部門を中心に在籍し、豊富な経験と高い見識を有しております。

取締役の濱田 浩氏は当社の経理部に1994年7月から2009年6月まで在籍し、通算15年にわたり決算手続ならびに財務諸表の作成等に従事しておりました。

社外取締役の川村 延彦氏は、弁護士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、監査等委員会において、当社の内部監査について適宜、必要な発言を行っております。

社外取締役の岩崎 厚宏氏は、税理士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、監査等委員会において、当社の内部監査について適宜、必要な発言を行っております。

社外取締役の原田 睦巳氏は、自らの体操競技経験と指導者としての知識・経験、大学での研究活動等、豊富な経験と高い見識から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、監査等委員会において、当社の内部監査について適宜、必要な発言を行っております。

監査等委員は、監査等委員会で策定された監査方針及び監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要な会議への出席や、業務及び財産の状況調査を通して、取締役の職務執行を監査します。

当事業年度において当社は監査等委員会を原則月1回開催しており、個々の監査等委員の出席状況については次の通りであります。

氏名	開催回数	出席回数
河本 勝	10回	10回
濱田 浩	10回	10回
川村 延彦	10回	9回
岩崎 厚宏	10回	9回
原田 睦巳	10回	7回

なお、当社は、2019年6月27日開催の第49回定時株主総会の決議により、同日をもって監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行しました。2019年4月1日から2019年6月27日までの監査役会の個々の監査役の出席状況については次の通りであります。

氏名	開催回数	出席回数
濱田 浩	3回	3回
川村 延彦	3回	3回
岩崎 厚宏	3回	3回

また、三様監査ミーティングを定例で毎月開催し、監査等委員会、会計監査人、監査室が出席して、月次のそれぞれの監査状況について報告及び協議を行い、監査の環境の整備に努めております。

② 内部監査の状況

当社における内部監査は、社内組織の一つとして他部署から独立した監査室を設置し、6名のスタッフにて監査等委員会の協力関係のもと、年間計画を立てて毎月必要な内部監査を実施しております。

また、内部監査結果及び是正状況については、監査等委員会及び会計監査人に報告し、意見交換を行います。

③ 会計監査の状況

(a) 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

(b) 監査継続期間

29年間

(c) 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 小此木 雅 博

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 立 石 康 人

(d) 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 6名 その他13名

(e) 監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人の選定及び評価に際しては、当社の広範な業務内容に対応して効率的な監査業務を実施することができる一定の規模と審査体制が整備されていること、監査日数、監査機関及び具体的な監査実施要項並びに監査費用が合理的かつ妥当であること、さらに監査実績などにより総合的に判断いたします。また、日本公認会計士協会の定める「独立性に関する指針」に基づき独立性を有することを確認するとともに、必要な専門性を有することについて検証し、確認いたします。

(f) 監査等委員会による監査法人の評価

当社の監査等委員会は、監査法人に対して評価を行っており、同法人による会計監査は、従前から適正に行われていることを確認しております。

また、監査等委員会は会計監査人の再任に関する確認決議をしており、その際には日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に基づき、総合的に評価しております。

④ 監査報酬の内容等

(a) 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	33	—	33	—
連結子会社	—	—	—	—
計	33	—	33	—

(b) 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（(a)を除く）

該当事項はありません。

(c) その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

(d) 監査報酬の決定方針

監査報酬は、監査法人から提出を受けた監査計画の内容の検討を行い、監査等委員会の同意及び社内稟議決裁の上、監査報酬額を決定しております。

(e) 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査等委員会は会計監査人の監査計画を確認のうえ、報酬額が合理的に設定されていると判断し、会社法第399条第1項の同意をしております。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬限度額は、2019年6月27日開催の第49回定時株主総会において年額4億円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）と決議しております（本有価証券報告書提出日現在は9名。）。また、監査等委員である取締役の報酬限度額は、年額4千万円以内と決議しております（本有価証券報告書提出日現在は5名。）。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）個々の報酬につきましては、代表取締役社長が取締役会からの委任を受け、業績等を勘案し、限度額の範囲内で決定します。

また、監査等委員である取締役個々の報酬につきましては、限度額の範囲内で、業績等を勘案し、監査等委員である取締役の協議によって決定します。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	賞与	退職慰労金	
取締役（監査等委員及び社外取締役を除く）	209	163	46	—	9
監査等委員（社外取締役を除く）	19	15	4	—	2
監査役（社外監査役を除く）	2	2	—	—	1
社外役員	6	6	0	—	4

(注) 1. 当社は、2019年6月27日付で監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行しております。

2. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

③ 役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である役員が存在しないため、記載しておりません。

④ 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、もっぱら株式の価値の変動または配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）に区分しております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容
今後も持続的に成長していくためには、様々な企業との協力関係が不可欠であります。

そのために、中長期的な観点から、発行会社との取引関係の維持・強化や取引の円滑化を通じて、当社の企業価値の増大に資すると認められる株式について保有しております。

また、保有の適否は保有意義の再確認、取引状況、保有に伴う便益等を定期的に精査の上判断しています。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (百万円)
非上場株式	10	25
非上場株式以外の株式	6	22

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額 (百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	1	12	事業運営上の関係強化の為の株式取得
非上場株式以外の株式	—	—	—

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額 (百万円)
非上場株式	1	0
非上場株式以外の株式	—	—

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数 (株)	株式数 (株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)伊藤園	2,000	2,000	当社グループ事業活動の円滑化の為	無
	11	11		
(株)りそなホールディングス	13,608	13,607	当社グループ財務活動の円滑化及び安定化の為	無
	4	6		
(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ	10,000	10,000	当社グループ財務活動の円滑化及び安定化の為	無
	3	4		
加賀電子(株)	1,100	1,100	当社グループ事業活動の円滑化の為	無
	1	2		
(株)伊藤園 第1種優先株券	600	600	当社グループ事業活動の円滑化の為	無
	1	1		
(株)みずほフィナンシャルグループ	5,000	5,000	当社グループ財務活動の円滑化及び安定化の為	無
	0	0		

③ 保有目的が純投資目的の投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (百万円)
非上場株式	—	—	—	—
非上場株式以外の株式	7	23	7	25

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額 (百万円)	売却損益の 合計額 (百万円)	評価損益の 合計額 (百万円)
非上場株式	—	—	—
非上場株式以外の株式	0	—	8

④ 保有目的を変更した投資株式

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2019年4月1日から2020年3月31日）の連結財務諸表及び事業年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、公益財団法人財務会計基準機構等の行う研修に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,420	5,932
受取手形及び売掛金	1,227	1,025
商品	246	242
貯蔵品	69	71
その他	※1 1,319	※1 1,256
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	8,281	8,526
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※1 30,365	※1 32,690
工具、器具及び備品	5,397	5,689
土地	※1 7,634	※1 7,711
リース資産	6,455	7,216
その他	601	287
減価償却累計額	△28,747	△30,346
有形固定資産合計	21,707	23,249
無形固定資産		
投資その他の資産	※1 284	※1 294
投資その他の資産		
投資有価証券	※1, ※2 258	※1, ※2 262
繰延税金資産	1,043	1,016
敷金及び保証金	※1 10,727	※1 10,590
その他	※1 873	※1 843
貸倒引当金	△50	△50
投資その他の資産合計	12,852	12,662
固定資産合計	34,844	36,206
資産合計	43,125	44,732

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	262	114
1年内返済予定の長期借入金	※1 949	※1 1,045
リース債務	439	433
未払金	2,144	1,854
未払法人税等	833	643
賞与引当金	727	702
役員賞与引当金	64	56
前受金	3,111	3,333
その他	1,941	1,611
流動負債合計	10,476	9,795
固定負債		
長期借入金	※1 1,988	※1 2,633
リース債務	5,020	5,536
退職給付に係る負債	108	114
資産除去債務	1,354	1,446
その他	473	469
固定負債合計	8,946	10,199
負債合計	19,422	19,994
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,261	2,261
資本剰余金	2,273	2,273
利益剰余金	19,566	20,826
自己株式	△418	△623
株主資本合計	23,682	24,737
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18	14
為替換算調整勘定	△15	△30
その他の包括利益累計額合計	2	△16
非支配株主持分	17	17
純資産合計	23,702	24,738
負債純資産合計	43,125	44,732

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	54,258	53,386
売上原価	46,315	45,877
売上総利益	7,942	7,508
販売費及び一般管理費	※1,※2 3,702	※1,※2 3,694
営業利益	4,240	3,814
営業外収益		
補助金収入	85	93
受取補償金	93	20
その他	138	71
営業外収益合計	317	185
営業外費用		
支払利息	601	619
その他	6	6
営業外費用合計	607	625
経常利益	3,950	3,374
特別損失		
減損損失	※3 25	※3 70
店舗閉鎖損失	105	—
固定資産売却損	—	37
特別損失合計	131	107
税金等調整前当期純利益	3,819	3,266
法人税、住民税及び事業税	1,239	1,100
法人税等調整額	△59	27
法人税等合計	1,180	1,128
当期純利益	2,638	2,138
非支配株主に帰属する当期純利益	0	0
親会社株主に帰属する当期純利益	2,638	2,138

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	2,638	2,138
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△4
為替換算調整勘定	△12	△15
その他の包括利益合計	※1 △15	※1 △19
包括利益	2,623	2,119
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,622	2,119
非支配株主に係る包括利益	0	0

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,261	2,273	17,829	△417	21,945
当期変動額					
剰余金の配当			△901		△901
親会社株主に帰属する当期純利益			2,638		2,638
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	1,737	△0	1,736
当期末残高	2,261	2,273	19,566	△418	23,682

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	21	△3	18	17	21,981
当期変動額					
剰余金の配当					△901
親会社株主に帰属する当期純利益					2,638
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△2	△12	△15	0	△14
当期変動額合計	△2	△12	△15	0	1,721
当期末残高	18	△15	2	17	23,702

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,261	2,273	19,566	△418	23,682
当期変動額					
剰余金の配当			△878		△878
親会社株主に帰属する当期純利益			2,138		2,138
自己株式の取得				△205	△205
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	1,259	△205	1,054
当期末残高	2,261	2,273	20,826	△623	24,737

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	18	△15	2	17	23,702
当期変動額					
剰余金の配当					△878
親会社株主に帰属する当期純利益					2,138
自己株式の取得					△205
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△4	△15	△19	0	△19
当期変動額合計	△4	△15	△19	0	1,035
当期末残高	14	△30	△16	17	24,738

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,819	3,266
減価償却費	1,782	1,893
減損損失	25	70
のれん償却額	38	—
補助金収入	△85	△93
受取補償金	△93	△20
支払利息	601	619
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△11	△24
未払金の増減額 (△は減少)	97	△345
前受金の増減額 (△は減少)	△605	224
その他	145	△155
小計	5,714	5,435
補助金の受取額	85	93
受取補償金の受取額	16	97
収用補償金の受取額	13	—
利息の支払額	△600	△618
法人税等の支払額	△1,125	△1,285
その他	110	65
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,214	3,787
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,429	△2,565
有形固定資産の売却による収入	—	25
敷金及び保証金の差入による支出	△169	△121
敷金及び保証金の回収による収入	170	258
その他	△213	△57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,642	△2,460
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	650	4,080
短期借入金の返済による支出	△650	△4,080
長期借入れによる収入	—	1,700
長期借入金の返済による支出	△1,539	△959
自己株式の取得による支出	△0	△205
配当金の支払額	△901	△878
その他	△429	△470
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,870	△814
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,300	511
現金及び現金同等物の期首残高	6,721	5,420
現金及び現金同等物の期末残高	※1 5,420	※1 5,932

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 5社

㈱明治スポーツプラザ

ケージーセントラルスポーツ㈱

Central Sports U. S. A., Inc.

Meridian Central, Inc.

Wellbridge Central, Inc.

2. 持分法の適用に関する事項

(イ) 持分法適用の非連結子会社数

なし

(ロ) 持分法適用の関連会社数

なし

(ハ) 持分法を適用していない関連会社 4社

パレスセントラルスポーツ㈱

八千代ゆりのき台PFI㈱

浜松グリーンウェーブ㈱

すみだスポーツサポートPFI㈱

それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社 3社

Central Sports U. S. A., Inc.

Meridian Central, Inc.

Wellbridge Central, Inc.

決算日 12月31日（注）

（注）連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(イ) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法

②たな卸資産

(1)商品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2)貯蔵品

最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(ロ) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当社および国内連結子会社は、定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用し、在外連結子会社は定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は、建物及び構築物が10～50年、工具、器具及び備品が3～8年であります。

②無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(ハ) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、主として前年の支給実績を基礎とした支給見込額をもって賞与引当金を設定しております。

③役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。

(ニ) 退職給付に係る会計処理の方法

一部の連結子会社では、従業員に対する退職給付に備えるため、会社負担の一時金制度については簡便法により当連結会計年度末における退職給付債務の見込み額（自己都合要支給額）を計上しております。

(ホ) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産、負債、収益及び費用は在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(ヘ) 重要なヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段…金利スワップ

ヘッジ対象…借入金

③ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規程及び取引限度額等を定めた内部規程に基づき、ヘッジ対象に係る金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

④ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(ト) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却をおこなっております。

(チ) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(リ) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

慮し、財務諸表間の比較可能性を大きく損なわない範囲で、個別項目に対するその他の取り扱いを定めることとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で未定であります。

(会計上の見積りの開示に関する会計基準等)

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)が2003年に公表した国際会計基準(IAS)第1号「財務諸表の表示」(以下「IAS第1号」)第125項において開示が求められている「見積りの不確実性の発生要因」について、財務諸表利用者にとって有用性が高い情報として日本基準においても注記情報として開示を求めることを検討するよう要望が寄せられ、企業会計基準委員会において、会計上の見積りの開示に関する会計基準(以下「本会計基準」)が開発され、公表されたものです。

企業会計基準委員会の本会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、個々の注記を拡充するのではなく、原則(開示目的)を示したうえで、具体的な開示内容は企業が開示目的に照らして判断することとされ、開発にあたっては、IAS第1号第125項の定めを参考とすることとしたものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末から適用します。

(会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等)

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実について検討することが提言されたことを受け、企業会計基準委員会において、所要の改正を行い、会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準として公表されたものです。

なお、「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実を図るに際しては、関連する会計基準等の定めが明らかな場合におけるこれまでの実務に影響を及ぼさないために、企業会計原則注解(注1-2)の定めを引き継ぐこととされております。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末から適用します。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取保険金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「受取保険金」に表示していた74百万円、「その他」に表示していた63百万円は、「その他」138百万円として組み替えております。

(追加情報)

当社は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言の下、政府や各都道府県の方針に沿って当社施設の休業又は営業再開を決定しております。

本感染症は国民生活や企業活動に広範な影響を与える事象であり、今後の拡大や収束を予測することは困難ですが、緊急事態宣言の解除や解除後の対応方針等、当社は入手可能な情報を踏まえ、2020年度の第2四半期以降、全社的な営業再開が軌道に乗るものとの仮定を置き、2020年3月期の繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

①担保提供資産及び担保付債務は次のとおりであります。

(1)担保提供資産

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物及び構築物	1,520百万円	1,023百万円
土地	5,399	4,406
無形固定資産	48	48
投資有価証券	5	3
敷金及び保証金	3,128	3,109
その他(投資その他の資産)	3	3
計	10,106	8,594

(2)担保付債務

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	919百万円	1,005百万円
長期借入金	1,930	2,519
計	2,850	3,525

②上記のほか、PFI事業会社に対する以下の資産を当該会社の借入金の担保に供しております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
流動資産 その他(短期貸付金)	2百万円	2百万円
投資その他の資産 その他(長期貸付金)	33	31
投資有価証券	15	15
計	50	48

※2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
投資有価証券	89百万円	89百万円

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
給与・手当	1,020百万円	1,055百万円
賞与引当金繰入額	187	166
役員賞与引当金繰入額	64	56

※2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
一般管理費に含まれる研究開発費	161百万円	160百万円

※3 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

用途	種類	場所	金額
店舗	建物及び構築物 工具、器具及び備品 その他	東京都、その他	25百万円

店舗については、キャッシュ・フローを生み出す最小単位で、資産のグルーピングを行い減損損失の判定を行っております。

営業活動から生じるキャッシュ・フローが継続してマイナスである店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失（建物及び構築物13百万円、工具、器具及び備品11百万円、その他0百万円）を特別損失として計上しております。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、使用価値は零として評価しております。

当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

用途	種類	場所	金額
店舗	建物及び構築物 工具、器具及び備品 その他	東京都、その他	70百万円

店舗については、キャッシュ・フローを生み出す最小単位で、資産のグルーピングを行い減損損失の判定を行っております。

営業活動から生じるキャッシュ・フローが継続してマイナスである店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失（建物及び構築物41百万円、工具、器具及び備品26百万円、その他2百万円）を特別損失として計上しております。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、使用価値は零として評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	△3百万円	△3百万円
組替調整額	△0	△1
税効果調整前	△3	△5
税効果額	0	0
その他有価証券評価差額金	△2	△4
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△12	△15
その他の包括利益合計	△15	△19

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自2018年4月1日 至2019年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	11,466,300	—	—	11,466,300
合計	11,466,300	—	—	11,466,300
自己株式				
普通株式	200,496	118	—	200,614
合計	200,496	118	—	200,614

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加118株は、単元未満株式の買取りによる増加118株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月11日 取締役会	普通株式	461	41.00	2018年3月31日	2018年6月29日
2018年11月8日 取締役会	普通株式	439	39.00	2018年9月30日	2018年12月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月13日 取締役会	普通株式	439	利益剰余金	39.00	2019年3月31日	2019年6月28日

当連結会計年度（自2019年4月1日 至2020年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	11,466,300	—	—	11,466,300
合計	11,466,300	—	—	11,466,300
自己株式				
普通株式	200,614	65,045	—	265,659
合計	200,614	65,045	—	265,659

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加65,045株は、2019年9月27日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加65,000株及び、単元未満株式の買取りによる増加45株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2019年5月13日 取締役会	普通株式	439	39.00	2019年3月31日	2019年6月28日
2019年11月8日 取締役会	普通株式	439	39.00	2019年9月30日	2019年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2020年5月13日 取締役会	普通株式	201	利益剰余金	18.00	2020年3月31日	2020年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金勘定	5,420百万円	5,932百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	—	—
現金及び現金同等物	5,420	5,932

2 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産 及び債務の額	560百万円	841百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として営業用として取得した自社使用設備であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1年内	5,938百万円	6,078百万円
1年超	13,621	13,787
合計	19,559	19,865

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主にスポーツクラブ経営事業を行うための事業計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

貸貸人等に対し、契約締結時に敷金及び保証金を差入れております。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に施設投資に係る資金調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

敷金及び保証金については、差入先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財政状況等の悪化等による回収懸念の早期把握を図っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限等を定めた社内規程に従っており、担当部署が決済担当者の承認を得て行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度（2019年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	5,420	5,420	—
(2) 投資有価証券			
その他有価証券	52	52	—
(3) 敷金及び保証金	10,727	10,764	36
資産計	16,200	16,237	36
(1) 長期借入金(※1)	2,938	2,934	△4
(2) リース債務(※2)	5,459	5,338	△121
負債計	8,398	8,273	△125

(※1) 1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(※2) 流動負債「リース債務」と固定負債「リース債務」を合算しております。

当連結会計年度（2020年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	5,932	5,932	—
(2) 投資有価証券			
その他有価証券	46	46	—
(3) 敷金及び保証金	10,590	10,592	1
資産計	16,568	16,570	1
(1) 長期借入金(※1)	3,678	3,686	7
(2) リース債務(※2)	5,969	6,088	118
負債計	9,648	9,774	126

(※1) 1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(※2) 流動負債「リース債務」と固定負債「リース債務」を合算しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

現金及び預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(3) 敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価については、差入先ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(1) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(2) リース債務

リース債務の時価については、元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
非上場株式	205	216

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(2)投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（2019年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	5,286	—	—	—
合計	5,286	—	—	—

敷金及び保証金については返還期日を明確に把握できないため、償還予定額を記載しておりません。

当連結会計年度（2020年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	5,864	—	—	—
合計	5,864	—	—	—

敷金及び保証金については返還期日を明確に把握できないため、償還予定額を記載しておりません。

4. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（2019年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	949	704	589	335	200	158
リース債務	439	382	347	334	282	3,673
合計	1,389	1,087	937	670	482	3,831

当連結会計年度（2020年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	1,045	930	676	541	484	—
リース債務	433	399	388	333	336	4,078
合計	1,479	1,330	1,064	874	820	4,078

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度 (2019年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	51	26	24
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	51	26	24
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	1	1	△0
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1	1	△0
合計		52	28	24

当連結会計年度（2020年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	35	12	22
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	35	12	22
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	10	14	△3
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	10	14	△3
合計		46	26	19

2. 売却したその他有価証券

重要性が乏しい為、記載を省略しております。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、有価証券について2百万円（その他有価証券の株式2百万円）減損処理を行っております。

当連結会計年度において、有価証券について1百万円（投資有価証券の株式1百万円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
前連結会計年度（2019年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（2020年3月31日）
該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
前連結会計年度（2019年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（2020年3月31日）
該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

一部の連結子会社では、確定給付型の制度として、会社が直接支給する退職一時金制度を有しております。
なお、退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	100百万円	108百万円
退職給付費用	9	8
退職給付の支給額	△1	△2
退職給付に係る負債の期末残高	108	114

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	－百万円	－百万円
年金資産	－	－
非積立制度の退職給付債務	108百万円	114百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	108	114
退職給付に係る負債	108百万円	114百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	108	114

(3) 退職給付費用

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	9百万円	8百万円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日現在)	当連結会計年度 (2020年3月31日現在)
繰延税金資産		
賞与引当金	258百万円	249百万円
未払事業税	75	65
未払事業所税	66	68
会員権	17	17
減損損失	321	317
減価償却超過額	118	118
繰越欠損金(注)2	56	5
資産除去債務	414	442
投資有価証券評価損	14	14
その他	246	253
繰延税金資産小計	1,588	1,552
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	—	—
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△110	△111
評価性引当額小計	△110	△111
繰延税金資産合計	1,477	1,441
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	△204	△204
子会社の留保利益	△46	△53
有形固定資産	△123	△136
負債調整勘定	△81	△60
その他	△16	△15
繰延税金負債合計	△472	△469
繰延税金資産(負債)の純額	1,005	971

(注)1 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日現在)	当連結会計年度 (2020年3月31日現在)
固定資産－繰延税金資産	1,043	1,016
固定負債－その他(繰延税金負債)	△38	△44

(注)2 税務上の繰越欠損金およびその繰延税金資産の繰越期限別の金額

(前連結会計年度)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越欠損金(※1)	—	50	—	6	—	—	56
評価性引当額	—	—	—	—	—	—	—
繰延税金資産	—	50	—	6	—	—	(※2) 56

(※1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(※2) 税務上の繰越欠損金56百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産56百万円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

(当連結会計年度)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越欠損金(※3)	—	—	5	—	—	—	5
評価性引当額	—	—	—	—	—	—	—
繰延税金資産	—	—	5	—	—	—	5

(※3) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日現在)	当連結会計年度 (2020年3月31日現在)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.7	0.7
住民税均等割等	2.5	3.2
評価性引当額	△2.1	0.0
その他	△0.8	△0.0
税効果会計適用後の法人税等負担率	30.9	34.5

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

スポーツクラブ施設用の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得後6年から47年と見積り、割引率は0.00%から2.31%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
期首残高	1,290百万円	1,354百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	48	62
時の経過による調整額	27	28
履行義務の消滅に伴う減少額	△12	—
期末残高	1,354	1,446

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）及び当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

当社グループは、スポーツクラブ経営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

スポーツクラブ経営事業の単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が、連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

スポーツクラブ経営事業の単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が、連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

報告セグメントが「スポーツクラブ経営事業」のみであるため記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

報告セグメントが「スポーツクラブ経営事業」のみであるため記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

報告セグメントが「スポーツクラブ経営事業」のみであるため記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）及び当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	2,102.44円	2,207.06円
1株当たり当期純利益	234.19円	190.37円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	2,638	2,138
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	2,638	2,138
期中平均株式数(株)	11,265,759	11,233,250

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社は、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事業への影響を鑑み、今後の事業展開における資金需要への対応と運転資金の確保及び財務基盤のより一層の安定を図るための資金を調達するため、以下の借入を実行しております。

借入先の名称	借入金額 (百万円)	金利	借入実行日	返済期限	担保の有無
株式会社りそな銀行(※1)	2,000	基準金利 +スプレッド	2020年6月17日	2020年6月30日	あり(※2)
株式会社みずほ銀行	500	固定	2020年4月7日	2025年3月31日	あり(※2)
	1,000	固定	2020年6月25日	2025年6月25日	あり(※2)
株式会社三菱UFJ銀行	500	固定	2020年4月8日	2025年3月31日	あり(※2)
株式会社三井住友銀行	500	固定	2020年4月3日	2025年3月31日	あり(※2)

(※1) コミットメントライン契約(借入極度額8,000百万円、契約期間1年間)を、2020年5月29日付で締結し、その内容に基づいて資金を調達しております。

(※2) 当社グループ保有固定資産の一部が根担保に設定されております。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	949	1,045	0.51	—
1年以内に返済予定のリース債務	439	433	6.4	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	1,988	2,633	0.42	2021年6月30日 ～2025年3月31日
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	5,020	5,536	12.3	2021年4月1日 ～2039年10月31日
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	8,398	9,648	—	—

(注) 1. 平均利率を算定する際の利率及び残高は期末のものを用いております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	930	676	541	484
リース債務	399	388	333	336

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	13,461	27,160	40,689	53,386
税金等調整前四半期(当期) 純利益(百万円)	861	1,645	2,450	3,266
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益(百万円)	566	1,077	1,604	2,138
1株当たり四半期(当期) 純利益(円)	50.29	95.61	142.73	190.37

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	50.29	45.32	47.11	47.65

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,452	4,745
売掛金	956	739
商品	229	225
貯蔵品	52	54
前払費用	747	778
その他	※1, ※2 491	※1, ※2 407
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	5,928	6,948
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 7,781	※1 9,180
構築物	114	164
車両運搬具	5	3
工具、器具及び備品	447	473
土地	※1 7,262	※1 7,335
リース資産	3,735	4,079
建設仮勘定	540	227
有形固定資産合計	19,888	21,464
無形固定資産		
借地権	※1 101	※1 101
ソフトウェア	100	155
リース資産	18	6
その他	58	26
無形固定資産合計	279	290
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 66	※1 71
関係会社株式	1,520	1,520
長期貸付金	※1, ※2 477	※1, ※2 439
長期前払費用	69	70
繰延税金資産	916	936
敷金及び保証金	※1, ※2 10,398	※1, ※2 10,260
会員権	※1 128	※1 128
保険積立金	192	195
その他	0	0
貸倒引当金	△50	△50
投資その他の資産合計	13,718	13,572
固定資産合計	33,886	35,327
資産合計	39,815	42,275

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	241	103
1年内返済予定の長期借入金	※1 949	※1 1,045
リース債務	390	384
未払金	1,999	1,712
未払費用	1,117	958
未払法人税等	778	600
未払消費税等	401	269
前受金	2,545	2,833
預り金	279	234
賞与引当金	702	678
役員賞与引当金	64	56
流動負債合計	9,472	8,877
固定負債		
長期借入金	※1 1,988	※1 3,633
リース債務	4,959	5,468
長期預り保証金	304	292
資産除去債務	1,135	1,222
その他	131	131
固定負債合計	8,519	10,748
負債合計	17,992	19,626
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,261	2,261
資本剰余金		
資本準備金	2,273	2,273
資本剰余金合計	2,273	2,273
利益剰余金		
利益準備金	70	70
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	463	462
別途積立金	14,000	15,000
繰越利益剰余金	3,154	3,189
利益剰余金合計	17,688	18,723
自己株式	△418	△623
株主資本合計	21,804	22,634
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	18	14
評価・換算差額等合計	18	14
純資産合計	21,822	22,648
負債純資産合計	39,815	42,275

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高		
フィットネス売上高	42,786	42,341
商品売上高	3,010	2,598
その他の営業収入	3,161	3,108
売上高合計	※1 48,958	※1 48,048
売上原価		
フィットネス営業原価及びその他営業収入原価	39,572	39,235
商品売上原価		
商品期首たな卸高	238	229
当期商品仕入高	2,250	1,971
合計	2,489	2,201
他勘定振替高	87	91
商品期末たな卸高	229	225
商品売上原価	2,172	1,884
売上原価合計	41,744	41,119
売上総利益	7,213	6,928
販売費及び一般管理費	※1, ※2 3,440	※1, ※2 3,481
営業利益	3,773	3,446
営業外収益		
補助金収入	85	93
受取補償金	93	20
保険配当金	0	17
その他	136	50
営業外収益合計	316	181
営業外費用		
支払利息	599	618
その他	5	5
営業外費用合計	605	624
経常利益	3,484	3,003
特別損失		
減損損失	25	70
固定資産売却損	—	37
店舗閉鎖損失	105	—
特別損失合計	131	107
税引前当期純利益	3,352	2,896
法人税、住民税及び事業税	1,125	1,000
法人税等調整額	△3	△18
法人税等合計	1,122	981
当期純利益	2,230	1,914

【フィットネス営業原価及びその他営業収入原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
1. 給料		9,292	23.5	9,484	24.2
2. 賞与		526	1.3	505	1.3
3. 賞与引当金繰入額		504	1.3	501	1.3
4. 福利厚生費		1,040	2.6	1,066	2.7
5. 業務委託費		4,670	11.8	4,528	11.5
6. 販売促進費		628	1.6	590	1.5
7. 旅費・交通費		704	1.8	675	1.7
8. 水道光熱費		4,607	11.6	4,553	11.6
9. 清掃費及びスクールバス運 行費		1,225	3.1	1,240	3.2
10. 消耗品費		863	2.2	879	2.2
11. 減価償却費		1,536	3.9	1,655	4.2
12. 設備維持管理費		1,775	4.5	1,588	4.0
13. 不動産賃借料		8,565	21.6	8,525	21.7
14. 企画原価		1,266	3.2	1,053	2.7
15. その他		2,365	6.0	2,387	6.1
フィットネス営業原価及び その他営業収入原価合計		39,572	100.0	39,235	100.0

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				利益剰余金合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				圧縮記帳積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,261	2,273	70	463	13,000	2,824	16,359
当期変動額							
圧縮記帳積立金の取崩				△0		0	－
別途積立金の積立					1,000	△1,000	－
剰余金の配当						△901	△901
当期純利益						2,230	2,230
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	－	－	－	△0	1,000	329	1,329
当期末残高	2,261	2,273	70	463	14,000	3,154	17,688

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価 差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△417	20,475	21	21	20,496
当期変動額					
圧縮記帳積立金の取崩		－			－
別途積立金の積立		－			－
剰余金の配当		△901			△901
当期純利益		2,230			2,230
自己株式の取得	△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			△2	△2	△2
当期変動額合計	△0	1,328	△2	△2	1,325
当期末残高	△418	21,804	18	18	21,822

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				圧縮記帳積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,261	2,273	70	463	14,000	3,154	17,688
当期変動額							
圧縮記帳積立金の取崩				△0		0	－
別途積立金の積立					1,000	△1,000	－
剰余金の配当						△878	△878
当期純利益						1,914	1,914
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	－	－	－	△0	1,000	35	1,036
当期末残高	2,261	2,273	70	462	15,000	3,189	18,723

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価 差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△418	21,804	18	18	21,822
当期変動額					
圧縮記帳積立金の取崩		－			－
別途積立金の積立		－			－
剰余金の配当		△878			△878
当期純利益		1,914			1,914
自己株式の取得	△205	△205			△205
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			△4	△4	△4
当期変動額合計	△205	830	△4	△4	825
当期末残高	△623	22,634	14	14	22,648

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(イ) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(ロ) その他有価証券

①時価のあるもの

事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

②時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(イ) 商品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(ロ) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。なお、主な耐用年数は、建物及び構築物が10～50年、工具、器具及び備品が3～8年であります。

(ロ) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(ハ) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存簿価を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ) 賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、前年の支給実績を基礎とした支給見込額をもって賞与引当金を設定しております。

(ハ) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額を計上しております。

5. ヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

(ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段…金利スワップ

ヘッジ対象…借入金

(ハ) ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規程及び取引限度額等を定めた内部規程に基づき、ヘッジ対象に係る金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

(ニ) ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式により行っております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

前会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取保険金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当会計年度においては「その他」に含めて表示しております。また、前会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取配当金」は、金額的重要性が増したため、当会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前会計年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前会計年度の損益計算書において、「営業外収益」の「受取保険金」に表示していた74百万円、「その他」に表示していた63百万円は、「受取配当金」0百万円、「その他」136百万円として組み替えております。

(追加情報)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

①担保提供資産及び担保付債務は次のとおりであります。

(1)担保提供資産

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
建物	1,520百万円	1,023百万円
土地	5,399	4,406
借地権	48	48
投資有価証券	5	3
敷金及び保証金	3,128	3,109
会員権	3	3
計	10,106	8,594

(2)担保付債務

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	919百万円	1,005百万円
長期借入金	1,930	2,519
計	2,850	3,525

②上記のほか、PFI事業会社に対する以下の資産を当該会社の借入金の担保に供しております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
流動資産 その他(短期貸付金)	2百万円	2百万円
長期貸付金	33	31
投資有価証券	15	15
計	50	48

※2 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期金銭債権	364百万円	328百万円
長期金銭債権	83	81
短期金銭債務	125	107
長期金銭債務	—	1,000

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	1,466百万円	1,403百万円
販売費及び一般管理費	2	2
営業取引以外の取引高	1	3

※2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度27%、当事業年度28%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度73%、当事業年度72%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
給料	967百万円	1,000百万円
賞与引当金繰入額	186	165
役員賞与引当金繰入額	64	56

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式1,431百万円、関連会社株式89百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式1,431百万円、関連会社株式89百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日現在)	当事業年度 (2020年3月31日現在)
繰延税金資産		
賞与引当金	250百万円	241百万円
未払事業税	72	64
未払事業所税	60	60
会員権	17	17
減損損失	321	317
減価償却超過額	118	118
資産除去債務	347	374
投資有価証券評価損	14	14
その他	212	216
繰延税金資産小計	1,413	1,424
評価性引当額	△95	△95
繰延税金資産合計	1,318	1,329
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	△204	△204
有形固定資産	△99	△113
負債調整勘定	△81	△60
その他	△16	△15
繰延税金負債合計	△401	△392
繰延税金資産（負債）の純額	916	936

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日現在)	当事業年度 (2020年3月31日現在)
法定実効税率 (調整)	30.6%	30.6%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.7	0.7
住民税均等割等	2.1	2.7
評価性引当額	0.0	△0.0
その他	△0.0	△0.1
税効果会計適用後の法人税等負担率	33.4	33.9

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社は、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事業への影響を鑑み、今後の事業展開における資金需要への対応と運転資金の確保及び財務基盤のより一層の安定を図るための資金を調達するため、以下の借入を実行しております。

借入先の名称	借入金額 (百万円)	金利	借入実行日	返済期限	担保の有無
株式会社りそな銀行 (※1)	2,000	基準金利 +スプレッド	2020年6月17日	2020年6月30日	あり (※2)
株式会社みずほ銀行	500	固定	2020年4月7日	2025年3月31日	あり (※2)
	1,000	固定	2020年6月25日	2025年6月25日	あり (※2)
株式会社三菱UFJ銀行	500	固定	2020年4月8日	2025年3月31日	あり (※2)
株式会社三井住友銀行	500	固定	2020年4月3日	2025年3月31日	あり (※2)

(※1) コミットメントライン契約 (借入極度額8,000百万円、契約期間1年間) を、2020年5月29日付で締結し、その内容に基づいて資金を調達しております。

(※2) 当社保有固定資産の一部が根担保に設定されております。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	7,781	2,262	44 (41)	819	9,180	19,670
	構築物	114	67	— (—)	17	164	616
	車両運搬具	5	0	0 (0)	2	3	24
	工具、器具及び備品	447	406	27 (26)	353	473	4,645
	土地	7,262	136	62 (—)	—	7,335	—
	リース資産	3,735	777	0 (0)	433	4,079	2,726
	建設仮勘定	540	1,075	1,388 (—)	—	227	—
	計	19,888	4,725	1,523 (68)	1,625	21,464	27,683
無形固定資産	借地権	101	—	—	—	101	—
	ソフトウェア	100	98	1 (1)	42	155	—
	リース資産	18	0	—	12	6	—
	その他	58	—	32 (0)	—	26	—
	計	279	98	33 (1)	55	290	—

(注) 1. 当期増加額のうち主なもの

建物…谷津店 945百万円、蘇我店 500百万円、東松山店 277百万円

土地…本社 136百万円

リース資産…袖ヶ浦店 481百万円、東松山店 194百万円

建設仮勘定…谷津店 631百万円、茂原店 216百万円

2. 当期減少額のうち主なもの

建設仮勘定…谷津店 940百万円、蘇我店 216百万円

減損損失…(主な内訳：建物 41百万円、工具、器具及び備品 26百万円)

3. 「当期減少額」の欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	52	1	2	52
賞与引当金	702	678	702	678
役員賞与引当金	64	56	64	56

(2) 【主な資産及び負債の内容】

主な資産及び負債の内容については、連結財務諸表を作成しているため省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日 9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店 (特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 _____ 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL https://www.central.co.jp
株主に対する特典	1単元所有の株主に対し株主優待券3枚、2単元以上所有の株主に対し株主優待券6枚、また、3単元以上保有の会員株主に対し株主優待券10枚を進呈。(年2回)

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度（第49期）（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）2019年6月28日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
2019年6月28日関東財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第50期第1四半期）（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）2019年8月14日関東財務局長に提出
（第50期第2四半期）（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）2019年11月14日関東財務局長に提出
（第50期第3四半期）（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）2020年2月14日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
2019年7月1日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年6月29日

セントラルスポーツ株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小此木 雅 博 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 立 石 康 人 印

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているセントラルスポーツ株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、セントラルスポーツ株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

<内部統制監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、セントラルスポーツ株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、セントラルスポーツ株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2020年6月29日

セントラルスポーツ株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小此木 雅 博 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 立 石 康 人 印

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているセントラルスポーツ株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、セントラルスポーツ株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。